幼兒の教育

第三十九卷　六月號　第六號

東京女子高等師範學校內
日本幼稚園協會

倉橋惣三編（新刊）

新體幼稚園唱歌

目次

日本の旗日の丸の旗　倉橋惣三作詞　小松耕輔作曲

道ぶしん　倉橋惣三作詞　井上武士作曲

いうびんやさん　倉橋惣三作詞　弘田龍太郎作曲

渡し場の船頭さん　倉橋惣三作詞　中山晋平作曲

火消しのをぢさん　倉橋惣三作詞　小林つや江作曲

四六倍判

定價（送料共）

金七拾錢

日本幼稚園協會編（新刊）

幼稚園新唱歌

目次

めだか　山村きよ作詞　小松耕輔作曲

ほたる　青山綾子作詞　小松耕輔作曲

雨　杉山米子作詞　小松耕輔作曲

ふしん場　氏原鎮作詞　小松耕輔作曲

四六倍判

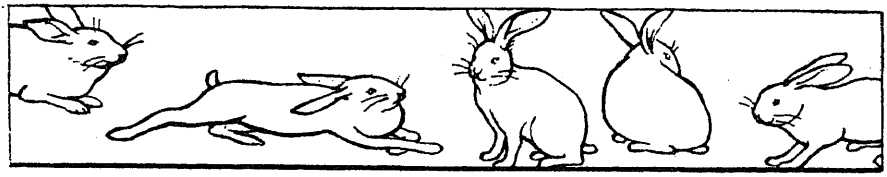
定價（送料共）

金五拾錢

○この二つの新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歡迎せらるることを期待してゐる。

日本幼稚園協會　振替東京一七二六六

東京・小石川大塚町五三
東京・高師附屬幼稚園内



第三十九卷　幼兒の教育　第六號

（目次）

扉
青少年學徒ニ賜ハリタル勅語……（一）
幼稚園の對象……倉橋惣三（二）
幼稚園新唱歌……小松耕輔（七）
雨……林太郎（一〇）
日光浴の話……萩原兼文（一四）
殘花聚園（八）……石川謙（一七）
縫はずに着る洋服……石井庄司（二〇）
幼稚園の遊戯と體育……（二三）
雨の日の幼稚園
自由遊びと手技……及川ふみ（三五）
雨の日の觀察あそび……清水光子（三七）
遊戯……小島その（三八）
談話唱歌……町田行子（四一）
小さい畑……大岩金（四六）
ハイディ――ヨハンナ・スピリ原作――……津田芳雄譯（五一）

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編　（新刊）

觀察の實際

菊判一三〇頁
定價金壹圓
送料 東京市内 金六錢 / 其他 金九錢

○觀察の實際については何か參考したいといふ御希望は皆様から常に伺ふ所、本書はその爲に最も適切親切なる書である。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集（三版）

菊版三五〇頁
定價金壹圓五拾錢
送料 市内 金六錢 / 地方・北海道・臺灣・樺太・朝鮮・滿洲 金拾五錢

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際（四版）

定價金壹圓
送料金六錢

幼兒の教育（月刊）

一ヶ月 金參拾五錢　送料金一錢
一ヶ年 金四圓貳拾錢　送料共

日本幼稚園協會　振替東京一七二六六
東京・小石川・大塚・三五
東京女高師附屬幼稚園内

幼兒の教育

昭和十四年六月

これはどうしてゐるところですかと尋ねたら、「金魚を頭に載せて散歩」と答へた。奇想天外と思ふのはおとなの考へ方で、子どもにとつては何んでもない、あたりまへのことである。散歩にはいつしよに往きたし、金魚のそばには居たし、と言つて、金魚を歩かせることは出來ない。一匹づゝ抱いてゆくことも出來ない。水鉢の水のまゝ持つてゆくより外ないのは、子どもとして當りまへ過ぎる程當りまへのことである。又、その大きい硝子の水鉢を、手にぶらさげてはゆけない。水をこぼしたら金魚に可愛そうだ。そこで、頭の上に載せて歩くのは、奇想でも、ふざけでもない、それこそ當りまへの中の當りまへである。

それを、止めもせず、笑ひもせず、いつしよに散歩してゐるお父さんとお母さんも大まじめである。わたし達も此繪を、まじめに見たい。——子どものどんな繪の場合でも。（倉橋惣三）

⊙文部省訓令第十五號

本日畏クモ
天皇陛下ニハ本大臣ヲ宮中ニ召サセラレ親シク左ノ　勅語ヲ下シ給ヘリ

國本ニ培ヒ國力ヲ養ヒ以テ國家隆昌ノ氣運ヲ永世ニ維持セムトスル任タル極メテ重ク道タル甚ダ遠シ而シテ其ノ任實ニ繫リテ汝等青少年學徒ノ雙肩ニ在リ汝等其レ氣節ヲ尚ビ廉恥ヲ重ンジ古今ノ史實ニ稽ヘ中外ノ事勢ニ鑒ミ其ノ思索ヲ精ニシ其ノ識見ヲ長ジ執ル所中ヲ失ハズ嚮フ所正ヲ謬ラズ各其ノ本分ヲ恪守シ文ヲ修メ武ヲ練リ質實剛健ノ氣風ヲ振勵シ以テ負荷ノ大任ヲ全クセムコトヲ期セヨ

本大臣ハ此ノ優渥ナル、聖旨ヲ拜シ感激措ク所ヲ知ラズ謹ミテ之ヲ全國一般ニ告知ス

恭シク惟ミルニ

天皇陛下天縱叡明夙ニ教育ノコトニ深ク御軫念アラセラレ屢〻之ガ振興ニ關シ　優詔ヲ下シ給ヒ今又青少年學徒ニ對スル優渥ナル　勅語ヲ賜フ　聖旨宏遠洵ニ恐懼ノ至リニ堪ヘズ本大臣ハ其ノ責任ノ愈〻重キヲ念ヒ益〻奉公ノ誠ヲ竭シ以テ　聖旨ニ答ヘ奉ラムコトヲ期ス

今ヤ我ガ國ハ未曾有ノ時艱ニ際會シ國家ノ總力ヲ擧ゲテ天業ノ翼贊ニ邁往ス而カモ前途ハ甚ダ遼遠ナリ將來國民ノ後勁トシテ之ガ大成ニ當ルベキ青少年學徒ハ負荷ノ重キニ顧ミ自奮自勵氣宇ヲ濶大ニシ識見ヲ高尚ニシ愈〻德ニ進ミ業ヲ修メ品性器能ノ玉成ニ力ヲ效スベキナリ若シ夫レ時局ニ對處シテハ各其ノ分ニ應ジ奉公ノ誠ヲ效スノ覺悟ヲ堅クシ夢寢ノ間ニモ事ノ急ニ應ズルノ用意ヲ怠ラザラムコトヲ要ス而シテ之ガ啓導薫化ニ任ズル者ハ　聖勅ニ昭示シ給フ所ヲ奉體シ夙夜黽勉後進子弟ノ誘掖ニ努メ相率ヰテ無極ノ　皇恩ニ答ヘ奉ラムコトヲ期スベシ

昭和十四年五月二十二日

文部大臣　男爵　荒木貞夫

幼稚園の對象

倉橋惣三

幼稚園の保育對象は言ふまでもなく幼兒である。卽ち幼稚園はその在園幼兒の園內生徒に對して第一の任務をもつて居るものである。そこでなし得る最善の教育效果こそ幼稚園の任務である。この意味に於て、小學校教育及びその他の學校教育が、兒童生徒を對象としてその任務を持つて居るのと等しきが如くに見ゆる。併し、兒童生徒の場合と幼兒の場合とは、それが家庭との關係に於て異つて居るところがある。兒童生徒の場合に於ては、もとより家庭の子であるが、學校兒童として又學校生徒として、家庭とは切り離されたる別個の教育對象として取扱はるゝところがある。言ひ換へれば、兒童生徒に對しては、家庭は家庭でその任務を盡し、學校は學校でその任務を盡し、それが相待ち相助け合つて效果を擧げてゆくと云ふ關係になる。更に言ひ換へれば、學校は學校の領域に於てその任務を盡すのであつて、必ずしも家庭を含めてその對象として居ることはない。これに對して、幼兒の場合は少しく異ると見られる。卽ち、幼兒は、兒童生徒の如く家庭から切り離されて教育對象となることが難い。おかしな言ひ方であるが、蝸牛が常に家を背に負ふて居ると同じく、幼兒は、如何なる場合に於ても家を離れたる單獨の對象として教育の前に來ることがない。蝸牛の場合に於ては、小さき家をになふと云ふ意味に例へられるが、幼兒の場合には、家から拔けきらないと云ふ意味に於てこのたとへが用ひられる。そこで、幼稚園の保育對象は幼兒であることはもとよりであるが、その幼兒は、どこまでも家といつしよに幼稚園の對象になつて居るのである。

幼稚園令第一條は、幼稚園の目的を示して、その幼兒そのものに及ぼす實質效果として、心身の健全なる發達及び善良なる性情の涵養を擧ぐるとともに、家庭教育を補ふと云ふ意味の社會機能を要求して居る。この句の意味はもとよりいろ

いろにされ得るのであつて、幼兒を家庭から引き拔き來つて家庭教育を補ふと云ふ意味も必ずしも全く成立し得ないものではない。云ひかへれば、幼兒を幼兒としてよく保育することによつて、その結果が自ら家庭教育の補助になつていくと云ふはたらき方である。更に言葉を加へて見れば、分擔的に家庭教育を補ふと云ふ意味である。こういふ解釋も必ずしも幼稚園の任務を解し誤つて居ると云ふものではない。しかし、幼稚園令に於けるこの句の意味は、もう少し深いと云ふか、少くも周到なる意味を持つものと思ふ。卽ち家庭ぐるみを對象とすると云ふ、幼稚園獨自の職能である。平に言へば、一人の子を入園せしむることは、その家のその子だけを拔き預ることではない。直ぐにその家庭そのものを對象としてもつのである。勿論、だからと云つて、家庭全體を絕えず幼稚園に招致するのでもなく、家庭全體に幼稚園の教育作用を造らうとするのでもない。しかしながら、前に述べたる如く、幼兒は家庭から離れて考へることの出來ないものである。したがつて、その家庭に働らきかけるところなくして、幼兒だけを保育すると云ふことは出來難いことである。あまりにも生々し過ぎるたとへ方のやうであるが、蝸牛を殼から拔いて育てることが出來ないのにも似て居やうか。

○

學校教育の場合に於ても、家庭との教育的聯絡は極めて大切とせられる。しかも、この場合に於ては、多くは學校を中心として家庭の聯絡を求めるのである。家庭を我に聯絡せしめることなく又家庭が來り聯絡することなくしてその教育は完全に行はれないとする、或はむしろ圓滑に行はれないとする。之に對して幼稚園の場合は異る。その子の教育の爲めに、幼稚園を主として、家庭に要求することも實際にはあつていゝであらうが、本質的には、幼稚園がその家庭に聯絡すべきである。家庭の爲めの幼稚園であると考ふべきであらう。

かくの如き關係は、所謂社會的保育事業の場合に於て、現にその通りに行はれて居る。託兒所に於ては家庭を助けやうとこそすれ、家庭に要求することは出來ない。家庭に適合する如くその保育の計畫を樹て又は運用してゆく。たゞその場合、家庭そのものを、どれだけその實質に於て補はふとして居るか、今日の託兒所に於て、遺憾ながら多くの實現と大なる期待とを持ち得ないやうではあるが、少くも生活の形式に於ては、託兒所はその家庭に赴かうとし、少くも家庭を託兒

所に從屬せしめやうとしては居ない。

幼稚園の場合は、生活の形式に於て特に家庭の方に順應してゆかねばならんと云ふやうな場合のないのを常とする。しかも、家庭教育の內容に至つては、幼稚園は家庭の中に入り込んでいつて、家庭そのものを指導してその子の家庭教育を向上充實することによつて、その子への幼稚園の任務を眞に果し得ると云ふ關係に立つべきものである。その意味に於て、やりとりの仕方は異つて居るとしても、幼稚園は託兒所と等しく家庭のものであるべきである。卽ち、家庭教育を補ふとは、分擔的に補助效果を擧げると云ふに止らず、もつと統轄的關係に於てその實が擧げられなければならないと解し度い。而してこの點に於て、今日の幼稚園は甚だしく少しのことしか成し得て居ないのではあるまいか。或は多數幼稚園はそう云ふことを思ひだもしないのではあるまいか、少しく大きな言ひ方をするやうであるが、幼稚園は日本の子どもを預り保育するだけでなく、日本の家庭を對象とすると云ふまでに、もつと大望を抱いていゝのであるまいか。

○

以上のことは、何も幼稚園の任務に關する理想論ではない。現にアメリカに於けるナーセリースクールの活動が之を行ふて居るのである。ナーセリースクールがイギリスに創設せられた時から、家庭と云ふことはその重要なる對象の中におかれてあつた。併し、未だ、働く母の教育的缺陷を分擔的に補はふとすることに重きをおかれてあつた。之は社會事業的にその發生を持つて居るイギリスのナーセリースクールとして、當然のことであつたとも言へる。それがアメリカに傳へられて、一方に於てはイギリスのまゝのナーセリースクールも普及したが、更に、母親教育機關としての任務を主とするもの、少くもその點を缺いではならぬとするものが發展し來つた。之、所謂アメリカンナーセリースクールである。そのナーセリースクールに於ては、保育が行はれて居る場面としては、もとより幼兒が對象となつて居つて、舊來の幼稚園と變らない。併し、母親を離れて幼兒を保育するだけをもつて、決してその任務を了せりとしない。幼兒を保育してゐることと自體が母親の教育として效果を擧ぐることを目標として居る。況んや、保育のさうした場面以外に於て、母親を直接の對象とするところの活動は綿密に行はれるのである。敢へて綿密と云ふのは、盛に行はれて居るとか、大規模に行はれて

居るとか云ふのと違つた趣を言ひ度いのであつて、普通の母親教育としての諸社會教育施設とは違つて居る。茲では、どこまでもそこに在園する幼兒の家庭の母の教育である。從つて社會教育的對象として母を集めて居るのとは違ふ。その方法に於ても亦母に直接的な教育を試みるとしても、たゞ概論的なる指導ではなくして、現にその園に保育されてゐる子どもに卽しての教育方法をとる。綿密とはこの細やかなる關係を云つたのである。卽ち子は子で教育し、母は母で教育すると云ふのでなく、母子一體の教育である。その母の子として保育せられ、その子の母として教育せられ、どこまでも個々別々に拔き出さない家ぐるみの教育である。卽ちこうしたナーセリースクールの對象は、幼兒でもなく、また母でもなく、切り離せない母子そのものであると言ひ得るのである。かくの如き仕方が如何なる效果を擧げてゆくものであらうかは縷言を要しない。その子を保育すると云ふことに於ての效果を擧ぐると共に、その子の最もほんとうなる教育本源を培つて居るのであつて、その子に現はれたる效果は所謂保姆直接の手柄(?)であるよりも、むしろ、間接なるもの卽ち、先づ、母へはたらいてそこから子どもへ及んでゆくと云ふ效果になるのである。その家庭は、ナーセリースクールのおかげで、母を離れて子どもを良くして貰つたと思ふのでなくして、子と共に家庭が教育されることによつて子を教育し得たと考へるであらう。こういふ效果がほんとうの力を持つであらうことは勿論として、更に、幼稚園に居る時だけの保育效果と云ふだけの限られたる又おそらくやそう深くは透み通り得ない效果とは別なものを生ずる。甚だおかしなたとへであるが、植木を拔いて來て大事にしては又元に返し、又拔いて來ては又元に返し、と云ふやうなことはあり得ないことである。どこまでも、鉢ぐるみである。從來の幼稚園が、根を拔いて來たと云ふやうのおろかな方法を採つて居たのに對し、今日のアメリカのナーセリースクールが鉢ぐるみであると云ふことは、實に言ひ得ると思ふのである。卽ち分擔的補助に比べてどんなにか根本的なことをして居るものと云ふべきものであらうか。

こういふと、これからの幼稚園は非常に新たなる施設を必要とし、新なる努力を要求せられるが如きであるけれども、その實際を打ち明けて見れば、必ずしもそう變つた仕事が殖えるわけでもない。勿論、アメリカに於てはいろ〳〵と周到なる實施方法が講ぜられて居るが、要は、家庭の相談機關としての職能を充分に發揮することである。その相談を充分に

なし得る爲に、時間の關係も、母と先生とが會ひ得る關係も、從來の幼稚園よりは一層懇切なものにならなければならないが、之は、その積りにさへなれば必ずしもそんなに面倒なことではあるまい。たゞその相談をするに當つて、幼稚園の方からの希望と要求とを投げ出して親に註文し或は親に命令するが如き態度では、相談にならぬ。その家庭に卽して、實際的にどう工夫さるべきかを話し合はなければ相談とはならぬ。同時にまた、こうした態度ばかりでなく、態度は極めて受けて迎へる態度であるとしても、その子に就て識るところ、その子の教育法に就て識見を持つところ、之は何としても先生の方が、專門家としての存分なる與へ手でなければならぬ。之が爲めには、幼稚園教育者は、擔任の幼兒達を、全體的に如何にして訓練するかと云ふやうな、幼稚園內に於ける教育活動の熟練者であるのみならず、個々の幼兒に就いて、恰も醫師が一人〳〵の診斷に委しきが如き技倆を持つものでなければならないことになる。若しこの實力に於て、充分備はるならば、態度も、自ら求められるがまゝに與へられる態度になるであらうし、その態度に基づいて、時間と實際の方法とが行はれていくであらうし、幼稚園が眞に家を對象として活動していくことは、幼稚園教育者のこうした專門家的技倆を中心とし、又第一の問題とするべきである。若し忌憚なく言ふことを許さるゝならば、今日の幼稚園教育者が、この專門家的實力を持つことによつて、幼稚園の目的を、幼兒だけから家庭へ擴大し得るであらう。

幼稚園新唱歌

東京女子高等師範學校教授　小松耕輔

幼稚園新唱歌は日本幼稚園協會の募集に當選した四篇の歌詞に、御依頼を受けて私が作曲したものであります。歌詞はいづれも幼兒を教育されつゝある實際家の作でありますから、眞に童心をもつて作られた優秀な歌詞であります。

第一が「めだか」で歌詞は次の通りであります。

めだか

一、スイ　スイ　スイ　スイ　スイ　スイ
めだかのぎようれつ　スイ　スイ
一ぴき　二ひき　三四ひき
みんなでなかよく　およいでく

二、きれいに澄んだ　川の水
めがかのこどもは　かはいゝな
どこまでどこまで　いくのでせう
スイ　スイ　スイ　スイ　およいでく

先づこの歌詞を何遍も幼兒と一處に讀んで、幼兒の頭の中にこの歌の情景がはつきり畫き出されるのを待ち、歌ひたくてたまらないといふまで待つてゐるのです。

そこで初めの一句「スイ、スイ……」を歌つてきかせるのです。なるべく柔かに言葉に近く歌ひます。

その次は「メダカノギョウレツ、スーイスイ」を教へます。その次の「イッピキニーヒキ」のイッピキはイーピキとならぬやうに言葉のとほりイッピキと歌ひます。その次のサンシヒキのところになると一寸音程が飛びますから幼兒はきつと稍〻低く目に歌ふでせうから注意して訂正してやる必要があります。

その次のミンナデのミンも矢張り言葉どほりミンと一語にして歌ひます。

第二の歌詞「カハノミヅ」のカハは四分音符に二字はひつてをりますが、これは八分音符二つにわけて歌ひます。この次四ヶ處ほどこれと同じく四分音符を二つにわけて歌ふところがありますが、前と同樣の取扱方にするのです。

此の曲は全體としてあどけなく、可愛らしく歌つていたゞきたいと思ひます。

第二は「雨」です。歌詞は次の通りであります

雨

一、雨が雨が降つてゐる
聞いてごらんよ音がする
ピチピチ、バシャバシャ音がする
ほら、お池に降つてゐる
金魚はどうしてゐるかしら

二、雨が雨が降つてゐる
聞いてごらんよ音がする
ポツポツ、ポツポツ音がする
ほら、八つ手に降つてゐる
晴れたら葉ッぱが光るだろ

輕い前奏四小節、つゞいてアーメガ、アーメガと歌ふのですが、このアーメガは次のやうな節になつてをります。

|5 3 4|5 3 4|
ア メ ガ ア メ ガ

しかるに幼兒は次のやうに歌ふかも知れませんから、この點を注意する必要があります。

|5 3 3|5 3 3|
ア メ ガ ア メ ガ

キーイテ、ゴランヨのランは切分音になつてゐますからゴーランとならぬやうに指導していたゞきます。

次のピチピチ、バシャバシャは齒切りよく稍〻小さく歌ひます。オトガスルで次第に强くなり、次のホーラにつゞきます。ホーラのところは、「ホーラごうだ、お池にふつてゐるではないか」といふ多少驚ろきの氣持で歌ひます。それから氣をかへて金魚に對する同情の氣持で歌ひます。

第二の歌詞も大體第一の歌詞と同樣です。終りのハレタラ、ハッパガヒカルダロはむしろ雨の後を待ちもうけて喜ぶ心持。

第三は螢です。

螢

ピカ ピカ ピカ ピカ
ほたるがとぶよ
ピカリ ピカリ
はつぱのかげでひかる。

これは短い可愛らしい歌です。眼に見たそのまゝの實景を寫生したものであります。其處には全く童心のひらめきがあります。

曲は四小節の前奏で始まります。つゞいて歌詞そのまゝの言葉のもつリズムのまゝの朗讀的調子で作曲しものであ

ります。故にことさら誇張せずに、さらくゝと兒童に歌はしたいと思ひます。つまり言葉の通りに、むしろ歌詞を朗讀する心持で歌はしたいと思ひます。歌ひ方も六つかしいところはありませんが次の諸點に御注意願ひたいと思ひます。

二段目の「ホータルガトブヨ」のところの附點八分音符と十六分音譜の組合せのところ、附點八分音符の音長を十分保つやうにしてください。又三段目の「ピーカリピカリ」のところも十分附點八分音符の音長を保つやうにしたいと思ひます。

次は「ふしんば」であります。歌詞は次の通りであります。

ふしんば

一、のこぎりのおと　ゴシゴシゴシゴシ
　かんなのおとが　スースースース
　くぎをうつおと　トンカチ　トンカチ
　　トン　トン　トン

二、さんかくしかく　大工さんがくれた
　木のきれ小ぎれ　積木にしませう
　くぎをうつまね　トンカチ　トンカチ
　　トン　トン　トン

これは大變にかはつた面白い歌だと思ひます。ふしん場の色々の音をとり入れて一種の音樂的雰圍氣を作つてをります。曲も相當その點を活したつもりであります。

四小節の前奏で始まります。二段目の三小節のところ「ゴーシゴシ　ゴーシゴシ」は初めのゴに力を入れて歌ひます。それにつゞく「ゴシゴシ」は稍〻輕く歌ひます。

三段目の「スースースース」は音をなめらかに、いかにもカンナがすべるやうに歌ひます。最後の「トンカチ　トンカチ　トントントン」は○のついてゐる音を強く歌ひます。

第二章の歌詞が生憎く擬音のところに「だいくさんがくれた」又は「つみ木にしませう」といふが如き言葉となつてをるのでメロディーの效果が十分でないのは遺憾に思ひます。節は外に六つかしいところは無いと思ひます。

以上誠に簡單な說明で相濟みませんでしたが、これでおしまひにいたします。

雨

東京女子高等師範學校教授　林　太郎

「雨と幼稚園」號が出るから何か書けといはれたが誠に難題である。何でもよいからこの事で御引受けしたものゝとんと見當がつかない。

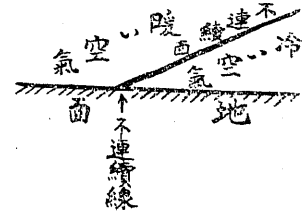
一昨年の八月木曾駒ヶ岳に登つて上松へ下る途中、五合目の金懸小屋といふのに泊つた。急な斜面に張り出しをして作つた小屋で脚下遙に木曾川が見え、眞向ふには御岳が聳えてその左右には幾重の山波が夕燒空に續いてゐた。左下の谷間の中途からはとぎれとぎれいつとはなく小さな雲が出來ては昇つてゆく、少し暗くなる頃風呂が沸いた。風呂は軒先にあつて、はいつてゐると檜、椹の梢越しに御岳が見える。その内に夕立がやつて來て間もなくひどい降りとなつて來た。まはりは唯一面に太い銀色の棒が見える計りである。軒から流れ落ちる雨水は樋で風呂に竝んで置かれた大きな桶の中へ滔々と流れこむ。五千尺の別天地の風呂は實に天水の風呂であつた。木綿の袋に何か藥草のやうなものが入れられて浮いてゐてほのかな山の香を漂はしてゐる。後できけば岳人參であつた。風呂から出ると夕立はあがつて脚下に黑雲の亂舞するのが暗くなる迄續く。

雨が河海大地の水が蒸發して虛空に昇り凝つて雲となり集つて雨となつて降るものである事はわかつてゐるがこの間の道行きを專門家の著書で了解した處は次の通りである。水を瓶に半ば入れて蓋をしておくと水の一部は蒸發して水蒸氣となり瓶中の空氣にまじる、この蒸發はある程度まで續くとそれからは止つてしまふ。この狀態を水蒸氣が飽和したといふ。飽和する迄に蒸發する水の量、言ひ換へると空氣に含まれ得る水蒸氣の最多量は溫いときよりも冷いときの方が少いのである。從て高い溫度のときに水蒸氣を飽和させて次にこれを冷すと水蒸氣の一部分は水滴となつて瓶の壁につく事となる、悠久の天地を大きな瓶と考へ、河海を瓶中の水と考へると前と同樣の現象が起る筈である。卽ち何かの原因で空氣が冷やされると空氣中の餘分の水蒸氣が微細な水滴となり雲となつて空中を浮遊し更に相寄り集つて水玉となり雨となるのである。

そこでどういふときに空氣が冷やされるかがわかれば雨

降りの原因がわかつた譯である。わかつてゐるのでも幾つもの場合がある。地面は空氣の深海の底であるから空氣の重さで押されてゐる。これが氣壓である。だから高い處へ行く程空氣の海の淺い處へゆく事になるから氣壓は高い處程減ずる譯である。東京では大體七六〇ミリメーターの氣壓であるが三七八〇米の富士山頂では五〇〇ミリ位に減じてゐる。低處の空氣の一部が上空に昇つてゆくと今書いた樣に上空は氣壓が低いからその空氣は膨れる。氣體は急に膨脹するときは冷える性質がある。だから低處から昇つて行つた空氣は上空で急に膨脹して冷えて含んでゐた水蒸氣の一部が雨となつて降るのである。木曾駒の夕立も多分この原因によるもので谷間から山腹を吹き昇つた氣流が高處で雨を降らしたのである。夏の入道雲は低地で溫められて輕くなつた空氣が眞直に上空に昇つて膨脹冷却して生じた雲でこれから大粒の驟雨が降つて來るのである。

この頃よく不連續線といふのが氣象通報に出て來るがこれも雨降りをおこすものである。大氣には暖い空氣と冷い空氣がまじらずにゐる事がある。この冷暖の空氣の接觸面を大氣の不連續面といふ。この面が地面とまじはる處は曲線になるがこの線を不連續線といひ、時には千島から琉球にまで延びてゐる事がある。不連續といふのはこの線の兩側が風向きや溫度等が著しく異つてゐるからである。小さな風呂の水でも沸き始め等に底の方と上の方と溫度が隨分違つてゐてよく攪きまはさないとなかなか一樣にならぬものであるからこの大きな大氣中で暖冷の空氣が時にまじらずにゐるといふ事は當然の事である。暖い空氣は水蒸氣を多く含んでゐる事は前に述べたが暖い多濕の空氣が不連續面に沿つて冷い空氣の上へ這ひ上るときは、前の山腹を這ひ上るときと同じで暖い空氣が膨れて冷えて水蒸氣が雨となるのである。このために不連續線の通る地方に大雨が降る事がある。これからの梅雨もこれに類したものである。冷い空氣が暖い空氣の下にもぐりこみそのために暖い空氣が押し上げられて膨脹冷却して冷い雨の降る事もある。



八月、九月の颱風の大雨はやはり空氣の膨脹によるが、颱風は大きな空氣の渦卷で、中心は氣壓が低くなつてゐる。渦は中心の方へ外から吸ひこむ作用があるから周圍の空氣が激しく吸ひこまれ捲き上げられて氣壓の低い處へゆくために膨脹冷却がおこつて大雨が降るのである。

古い本であるが德富蘆花の「みみずのたはごと」の中に驟

雨浴といふ文がある。庭の芝生にふり始めた夕立の中に立つ蘆花に奥さんが大きな硝子の鉢をもつて來る。「硝子は電氣を絶縁するといふので雷よけのまじなひにかぶれといふのだ、諾と受取つていきなり頭にかぶつた、黒眼鏡をかけた毛だらけの裸男が硝子鉢を冠つて直立不動の姿勢をとつたところは新式の河童と云ふ見得だ。不圖思ひついて彼は頭上の硝子鉢を上向けにし兩手で支へて立つた。一つ二つと三十ばかり數ふると取り下ろしてぐつと一氣に飲み乾した。やはらかな天水である。二たび三たび興に乘じて此の大盃を重ねた。」といふのがその一部である。

雨水は自然の蒸餾水である。種々のものを溶かしこんである地上の水にくらべたならば天水の味は淡いものに違ない。蒸餾水は飲料水としては保健上よくない相だが風呂の水としてもよくないと思はれる、木曾駒の山小屋の風呂が藥湯であつた事は意味のない事はない。

雨水は純粹な水のやうに思はれるが事實はなかなか種々のものが溶けてゐる。意外の事は食鹽を含んでゐる事である。これは波や風で舞ひ上つた海水の飛沫が空高く昇つて雨にとけて降つたもので、蒙古の黄砂が海を越えてわが國へ降る事を思へば不思議はない。尚この他にアムモニア、硫酸、亞硝酸、硝酸等を含んでゐる。硫酸は石炭が燃えるとき生ずるもので都會の雨に殊に多い。降り始めの雨は空氣を洗ふ事になるからこれらのもの他塵埃も含みかなりよごれてゐる。田舍でも降り始めの雨はあまりきれいではない。蘆花が元氣であつた頃の粕谷の雨はきれいだつたらうが今はもう飲まない方が良いかもしれない。アムモニアの化合物は肥料として農家に必要なものであるが雨中のアムモニア、硝酸、亞硝酸は肥料として有效なもので雨のもたらすこれらの物の量は一年にはかなりの量で雨は肥料としてかなりの役目をしてゐるらしい。アムモニアは地上で腐敗によつて生じたものが昇り、亞硝酸、等は空氣から出來たものかも知れない。

間もなく鬱陶しい梅雨が來るが一體一年にどの位雨が降るかを調べて見ると天文臺の調で三十年餘りの平均では東京は一年に百四十四日雨降りの日がある。但しこれは降つた雨が流れたり滲みこんだりせずに全部溜つたときに深さが〇・一ミリ以上の降雨のあつた日を數へたもので僅か雨の降つたときも入つてゐる譯で、尚雪も入つてゐるが一年に十四日である。序に調べて見ると晴天の日は五十四日、曇天の日は百六十三日となつてゐる。

これを今少し詳しく月別にして調べて見ると次の表の通である。

これで見ると六月の梅雨時は勿論多いが九月の方がよく降つてゐる。秋晴れを思はせる十月も意外に雨の多い月で

溜つたときの深さをミリメートルで測つたもので降水量といふものである。小さな圓筒を野天に置いて雨を受けてその深さを測るのである。流れもせねば蒸發もしなければ一年には背丈け程の深さになる譯である。一ミリメートルの降水量は一坪當り一斗八升許りであるから九月中には四十八石餘りも降り一年では二百八十九石の水が一坪に降つてゐるのである。

以上つまらぬ固苦しい話であるが「雨と幼稚園」號ならばこんなのも一つ位はと考へて雨に因んだ素人話を書き竝べた次第である。

第　1　表

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
雨	7	9	13	13	13	15	13	13	16	14	10	7	144
曇	7	9	12	15	17	21	18	14	17	16	11	7	163
晴	10	7	6	3	3	1	1	2	1	4	7	10	54

第　2　表

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計合
降水量mm	51	85	111	133	148	163	124	165	266	213	93	55	1608

ある。この事は秋の運動會などで困つた事を思ひださせる。併し六月は二十一日も曇りで陰鬱な天氣の多い事を示してゐる。

雨が降つたといふからには降つた雨の量を考へて見なければならない。次の表は東京の記錄で降つた雨がそのまゝ

日光浴の話

東京帝國大學醫學部衛生學教室　萩原兼文

新緑の若葉に、燦々と太陽が照り輝く、氣持よい頃となりました。子供達も小鳥の樣に、體一杯日光を浴びて嬉しそうに遊んで居ます。

さて、日光々線は吾々人間にどんな影響があるのでせうか、吾々は太陽から如何なる恩澤を蒙つて居るでせう。

光は空氣を傳はる小さな波で、普通其波長の單位はミリ、ミクロン（ミクロンは一ミリの千分の一）或は、オングストローム（ミリミクロンの十分の一）を用ゐます、日光を先、大體三つの部分に分けますと、吾々の眼に見える「可視光線」、熱を與へる「熱線」（赤外線）、化學作用の強い「化學線」（紫外線）とに分けられます。此の「可視光線」とは、光をプリズムで分けて見ますと、赤、橙、黄、綠、青、藍、紫の順に見える光で、赤の先端が八〇〇ミリミクロン、紫の端が四〇〇ミリミクロンとなつて居ります。人間の視神經は大體此範圍位しか感ずる事は出來ません。それで此光がなければ吾々は物を見る事が出來ませんので、精神的に憂鬱になります。唯でも御天氣の好い朝などは誠に氣持の好いものですが、雨の日や、眞暗な闇夜などは、氣分が滅入つてしまいます。つまり可視光線は人間の精神生活に必要缺くべからざるものであります。

次に「熱線」（赤外線）は、赤よりも波長の長い光で日光全體の大部分（六十プロセント）は此光です。八〇〇ミリミクロンから二三〇〇ミリミクロン位まで有ります。此光は吾々には見えませんが、物を暖める力がありますので、熱線と云はれます。そして良く物體の中まで通りますから、吾々が日光を浴びますと、皮膚を通して筋肉や臟器まで暖められます。從つて身體の新陳代謝が盛んになつて來ます。こゝで日光浴の際に氣を付けなければならない事は、第一に「頭を照らすな」と云ふ事です。腦細胞は非常に微妙なもので、大事な處ですから、厚い頭骸骨で包まれ、其上に、皮膚に長い毛髮まで生えて居ります。日光を直射すれば、熱線は是等の防禦物を通して腦細胞の中まで入ります。フラ〳〵と正氣を失つて倒れる日射病は、こう云ふ原因から生じます。第二に、日光浴の時は、なるべく、「緩やかな衣服

を着ろ」と云ふ事です。日光を受けますと、熱線の爲に身體が暖められ新陳代謝が激しくなりますから、汗が出て熱の放散が活潑になつて來ます。從て若し身體を締め付ける樣な窮屈な衣服を着て居ますと、熱の體外發散が十分出來難く、だん〳〵體内に鬱熱する樣になり遂には熱射病を起して倒れます。前の日射病も此の熱射病も、日蔭の場所に運んで靜かに寢かせ、着物を緩かにして葡萄酒などを少し與へますと程なく治りますけれども、其儘、戸外の日光の下に放置して置きますと重態になります。

次に日光の「紫外線」(化學線)は誠に少量で、全量の一パーセントですが、其作用は仲々强烈です。此光は非常に物に吸收され易いものですから、四〇〇ミリミクロンから二九五ミリミクロン位迄しか地上に來て居りません。

二九五ミリミクロン以下の短い紫外線は、太陽光線が、地上に來る以前に小さな飛塵や、水滴上空のオゾン等に吸收されてしまうのです。然し其作用は强烈で色々の力を持つて居ります。細菌を殺し、皮膚病を治す、皆此光です。亦壁紙の色々褪せるのや、皮膚の色が段々燒けて黑くなつて來るのも此光の爲です。

殊に皮膚の燒けますのは、紫外線の中でも三〇〇ミリミクロンの所が最强く燒けると云はれて居ます。つまり皮膚が自衛的に、强い紫外線の力を緩和(ドルノーの研究に因る。從て此三〇〇ミリミクロン附近を「ドルノー線」亦は健康線と云ふ)する爲に、皮下に、メラニン色素を沈著させるので皮膚色が段々黑くなつて來るのです。處で紫外線は物に吸收され易く、皮膚を通しませぬが、其代り、皮膚にあるエルゴステリンと云ふ蛋白質を、ビタミンDにする化學作用があると云はれます。ビタミンDは生長發育を助長しますから、子供には殊更日光が必要になります。よく都會には虛弱兒童が多いと云はれますが、其一つの原因は都會には工場等が多く煤煙や塵が多い爲に、稍〻もすると紫外線が是等の飛塵に吸收され勝ちで、最多くビタミンDを形成する三〇〇ミリミクロン位の光が無くなり易いからなのであります。そこで都會の子供は努めて郊外の新鮮な日光、空氣に觸れる必要があります。亦普通の硝子は三〇〇ミリミクロンの光を通し難いものですから、硝子戸の中の日光浴は其效力が、だいぶ輕減せられます。猶、日光浴をすると、血液の中の赤血球、白血球が殖えて、病氣に對する身體の抵抗力を增すと云はれますが、之れも紫外線の力らしいのです。

吾々が强い光を見る時、とても眩しくて長く見て居られません、これも紫外線が直接、眼に强く作用するからです。ですから、日蝕を見る時や、反射の强い晴天の日のスキー等の際は是非、保護眼鏡を掛けるべきです。

以上で大體、光の作用が御理解になつた事と思ひます。要するに日光浴をしますと、新陳代謝を高め、發育を助長し、抵抗力を增しますから、子供や、病後の人(殊に結核治癒後の人)には殊に其效果は大ですが、頭と眼の保護と、着物を緩やかにする事を忘れてはなりません。

日光浴の本當の效果は、着物を着ないで裸體で日光を直射するのがよいのですが、其際は日光を受けない部分に着物を掛けて、風邪を引かぬ樣に用心します、但し餘り長時間日光浴するのは考へ物で、汗が出ない程度に止めて置きます。

亦、目下病中の人、殊に發熱の人は、一應醫師の許可を得ない限り、絕對に日光に直射されてはいけません。

それから夏の日光は、冬の日光に比べますと四、五倍强いのですから日光浴の時間も四、五分の一にしなければなりません。

亦病後の子供は日光浴の時間も、五分位から徐々に延ばして行く樣にし度いものです。

以上誠に粗雜な御話ですが此位で止めます。

さゝやかなおもひ

ふ　さ

やうやくに親とはなれて遊びする
　こらとおもふにいとしさまさる

すみとほるこらのひとみの畏さに
　心ゆたけくすごさむとおもふ

快き疲れなるかもこらすべて
　つゝがなかりし今日の一日は

幼兒を育む身となりまちゆけば
　なべてこどものものゝ目にふる

殘花聚園（六）

（日本幼兒教育史資料）

東京女子高等師範學校教授　石川謙

五、教子報（一）

中江藤樹は通俗教育子供教育に就いて、親切な意見を出した最も早い先覺者の一人である。寛永十八年に『翁問答』を綴つたが、此の書の中にも既に子供教育に關する興味多い意見の數々が含まれてゐた。藤樹は、然しまだ、此の書を世に公にする考へがなかつたのであつたが、いつの間にか轉寫の一本が洩れて、書肆の手に入り出版されてしまつた。そこで此の未定稿の『翁問答』を回收して絕板にする代償として、『鑑草』（六卷）を與へたのである。『鑑草』は支那の書物を原典として、その主意に隨つて女子教訓を說いたものである。その中の一卷（鑑草卷四）に「教子報」といふのがあつて、子供教育に關して詳しい意見を述べてゐる。ここに紹介しようとするのは、その『鑑草』の一節である。初めに先づ最も大切だと思はれる原理の部分を四項に分けて、原文のまゝに引用する。第一項第二項は教育の必要を解き、第三項は子供教育の原理と方法とを述べ、第四項は成人教育の要領を論じたものである。

一

「教子は子に道ををしへて、その明德佛性を明らかにさせる事なり。子の明德明らかなれば、生ては忠養のむくひをうけ、死しては生天の福ひをうく。いかんとなれば、子の明德あきらかなればかならず孝行誠あるゆへに、たとひその子の福分うすくして貧賤なりといへども、その孝養まめやかにして、親のこゝろ安樂なるものなり。子の明德くらければ孝心まことなきゆへに、たとひその子の福分あつくして富貴なりといへども、孝養まめやかならざれば、親のこゝろよろこび安ずるこころなし。さてまた子の明德明らかなれば、當來生天の福ひをうくる事、一子出家すれば九族天に生ずといへる理りなり。出家と云は髮をそり衣を墨にそむるを云にはあらず、明德

佛性を明らかにして、世間の苦しびをまぬかれいづるを出家とも云、出世間とも云なり。其子の明德くらくして、徒に供佛施僧の孝養をのみいとなむばかりにては、生天の福ひをうる事あたはず。斯あれば、現世後生ともに孝養の誠をうくる事は、子の明德を明らかにするより外はなし。本來親の子にをしゆるは、むくひをのぞむこころにあらずといへども、此理りをよくわきまへて、教をはげますこころを知べし。

二

「貴も賤も、智あるも、愚なるも、生とし生る人、その子を愛せざるはなし。子を愛するときは、かならずその子に寶をあたへんことをねがはざるはなし。しかはあれど、天下第一の寶のある事をわきまへざる故に、徒に世間のたからをあたへんとのみねがひて、生命のたからをあたへんと願こゝろなし。それ天下の寶二つあり。人々の心の中に明德と名づけたる無價の寶あり。これを性命のたからと云、天下第一の寶なり。いかんとなれば、この寶をよくたもちぬれば、その心常にたのしび、何事も皆心にまかせ、世間の寶も福分にしたがひてあつまり、子孫もこれによつて繁昌し、當來かならず天に生ず。今生後生の安樂、思ひのまゝなる功德ある如意寶珠なれば、天下第一の寶とす。金銀珠玉、天子諸候の位を世間の寶と云、天下第二のたからなり。いかんとなれば、明德明らかなる人これをうれば、その福ひめでたく、天下の人皆そのめぐみにうるほへり。明德くらくして是をうれば、その身の苦しびと成、或は身をころし國をうしなふ災ひこれよりおこれり。桀紂は天子の富貴をうけられぬれ共、明德くらきゆへに、其身ころされ國を失ひて、田夫野人の福ひにもをとれり。これは用る人のあやまりにして此寶のとがにはあらざれども、本來寶の功德をとれるゆへなり。しかのみならず世間萬用の重寶のみにして、出世間の重寶とならず。彼と云是と云、如意寶珠の明德には遙に劣れる寶なれば、天下第二の寶と云なり。其下如意寶珠の明德は人々具足の物なれば、上天子より下庶人にいたり、上聖人より下凡夫にいたるまで、もとむればうる物なり。世間の寶は天命の福分ありて、人ごとに得る事あたはず。その福分なければ、夜目にむねをこがし東奔西走してもとむるといへどもその甲斐なし。しかるゆへに千金のゆづりを受て程なく貧窮にくるしみ、一錢のゆづりをうけざる孤も家を興しとみさかへぬるためし、眼前に明白なり。寶の勝劣を求むれば、かならず得る。ともすれども得る事あたはざるこの理りをよく考へて、天下第一の寶をゆづらん事、子を愛するの至極なるべきにや。」

三

「子にをしゆるに、幼少と成人との差別あり。幼少の時には、父母、めのとなどの心行を教の根本とす。さて其子の悪念をひきうごかし、悪にならはざるやうに、用心第一なり。童部わざ、だはぶれごとなどをば、その子の心にまかせてあながちにいましめ制すべからず。いかんとなればこれらのわざは年たけぬればをのづからなをるものなり。子にをしゆると云事をあさく心得たる人は、心のをしへある事をわきまへずして、幼少の時より成人のものゝふるまひをさせんといましめぬるによつてその心すくみ氣屈していなものになるものなり。かくのごとくなるを見て、幼少の時には教へ戒むる事悪しと心得、寵愛におぼれ、何事をもその子の氣隨にまかせて佚樂にふけるやうにもてなし、ものいひ立ふるまいなどのいやしくそこつにして、その心放埒に習をも戒しめ制する事なし。これ皆子をそだつるあやまりなり。これをかゞみて、童わざ、たはぶれなどをばその子のわざにまかせ、心の悪に習をば能教へいましむべし。そのをしへやうは、父母めのとなどの心得にて、常々のざれごとにも用心ある事なり。世間の人此理りをわきまへざるによつて、その子の我滿にして身がまへなるわざあれば、利根なりとよろこびほめて、いよ〳〵習ひしむやうにもてなし、或は兄弟なみ居ぬるときは、かれは我子、是は我子にあらずなどゝたはぶれて、其子の爭ひねたむ心をひきうごかし、或はいみじき食物衣服などに逢時は、あたへんあたへまじきなどたはぶれて、その子の貪欲の根を引うごかす。或はその子人に對し心にさかふ事ありてなきさけぶ時は、その子に道理を付て、かれをうたん彼をしからんなどいひすかして、その子のうらみをむくひ、人をうち人をたゝかふ狠戻の根を引うごかす。あるひはむざと誑かして、人を欺く機變の根を引うごかし、或はむざとおそろしきつくりごとをいひたはぶれ、おどしておびへおそるゝ臆病の根を引うごかす。かくのごとく覺へずしらずその子の悪念を引うごかし、ゆく〳〵明德をくらます習ひをつくる事、あげてかぞへがたし。此理りをよく心得て、貪欲の習ひ、我滿の習ひ、狠戻の習ひ、爭ひ勝習ひ、人をあなどりいやしむ習ひなどの、しみつかざるやうに用心第一にし、かりそめのたはぶれにも、父母兄み老たる人に、みやづかへのわざを教へ、つとめて謙德をやしなふべし。」

四

「成人しての教には明德明らかなる君子をもとめ、師匠として儒道の心學ををしへ、ひたすらに、明德を明らかに

（二二頁へ）

縫はずに着る洋服

東京女子高等師範學校教諭兼教授　石井庄司

一

常陸風土記の久慈の郡の條に、左のやうな記事が見える。郡の東七里、太田の郷に、長幡部の社あり。古老の曰へらく、珠賣美萬の命、天より降りましゝ時、御服を織らむ爲に、從ひて降りし神の名は、綺日女の命、本、筑紫の國の日向の二神の峰より、三野の國の引津根の丘に至りき。後、美麻貴の天皇の世に及び、長幡部の遠つ祖、多立の命、三野より避けて、久慈に遷り、機殿を造り立てゝ初めて織りき。その織れる服、自ら衣裳と成り、更に裁ち縫ふことなし。これを内幡といふ。或るもの曰へらく、絁を織る時に當りて輒く人の見るが故に、屋の扉を閉ぢ、内を闇くして織る。よりて烏織と名づく。强き兵、利き劍も裁ち斷ることを得ず。今年毎に、別に神の調として獻納れり。（武田祐吉編風土記に據る）

太田の郷は、今も太田町といひ、西山莊の東にあたるところである。此の村の東幡村に長幡部神社といふのがあり、祭神は大幡主神といふ。「珠賣美萬命」は皇孫瓊瓊杵の尊の事で、所謂天孫降臨の際に、御服を織るために、天降り給うた神は綺日女命といつたといふ。もとは筑紫日向の高千穗の二上峰においでになつたが、後に美濃國の引津根の丘にお遷りになり、美麻貴の天皇卽ち崇神天皇の世に至つて、長幡部の遠い祖であるところの多立の命が美濃から此の久慈郡にお遷りになつた。機殿を造つて初めて織つたところが、その織つたものは自然と衣裳となり、一向裁縫の必要がない。之を內幡と云つた。裁縫をしないでも衣裳になるやうに織つた布といふことである。此處までが古老の言葉である。更に或る者がいふには、絁を織る時になつて、容易に人が見るので、家の戸を閉めて眞闇にして織つた。それで烏織又はクロオリといつた。如何なる强い兵士でもまたよく切れる劍でも、其の布を裁ち切ることが出來ないと言ふ。洵に不思議な、神祕的な布である。

さて此の傳說で注意されるのは

（イ）織つた布が自然と衣裳になるといふこと。

（ロ）闇がりで織つた布が、强兵・利劍によつても斷ち切る

ことが出來ない。

といふ事の二つである。一つでも面白いが、二つも條件が適つてゐるので、よいお話の種といふことが出來よう。さて之をどう話してみるか。

二

或るところに、花子さんといふ女の子がゐました。

花子さんのお母さんは、ずつと前からお身體が惡くて、ねていらつしやいました。けれども花子さんは、大變お悧巧で、なんでも自分でいたしました。

朝起きると、自分できれいにお顏を洗ひました。御飯も自分一人でたべました。それからかはいゝエプロンをかけて、小さいカバンを提げて、ねえやさんと一所に幼稚園へ行きました。

幼稚園から歸つて來ると、

「お母さま、只今！」

と元氣よく、お母さんのおやすみになつてゐるお部屋へ出かけて、いろ〳〵面白いお話をいたしました。また幼稚園でお習ひしたお唱歌をうたひました。

ムスンデ、ヒライテ、

テチウツテ、ムスンデ……

といふかはいゝお遊戯も一人でして、お目にかけました。お母さんはいつも花子さんが歸つて來るのを待つていらつしやいました。そして、おやつにおいしいお菓子を下さいました。

花子さんは、お菓子をいたゞいても、自分一人なので、いつもさびしそうにしてゐました。

「お母さまが、早く、お起きになればいゝがな」

と考へてゐました。

その中に、花子さんの幼稚園では、遠足に出かけることになりました。みなさんは、かはいゝ洋服を着て、赤い帽子をかむり、リボンの附いたお靴をはいていらつしやいます。花子さんも、かはいゝ青い洋服を着て行きたいなと思ひました。けれどもお母さんは、御病氣ですから、お頼みすることが出來ません。いつもの古い洋服を着て

「つまらないな」

と思ひました。けれども、花子さんはもうそんなことはすぐに忘れて、いつものやうに元氣よく遠足に出かけて行きました。

花子さんは、お宮の前を通るときには、きつとていねいにお辭儀をいたします。今日も帽子をとつてお辭儀をいたしました。

靜かなお宮の森では、小鳥がたのしさうにピイチクピイチクないてゐます。その小鳥の聲と一所に、なんだかギートントンギートントンといふ音がきこえて來ます。なんだ

らうと思つて、森の中へ入つて行きました。すると、見たこともないやうな、美しいお姉さまがギートントンと機を織つていらつしやいました。そして花子さんの方を向いて、にこ〳〵しながら

「花子さん、今日の遠足に、あなたは、どんな洋服で行きますか。赤いのがいゝですか、青いのがいゝですか」

とおつしやいました。

花子さんは、びつくりして、眼をパチクリさせてゐますと、またその方は、

「これは、花子さんのお洋服にしようと思つて織つてゐるのですよ」

とおつしやいました。そして機からお取りになると、縫はないのにそれがちやんと洋服に仕立てゝありました。

そこで花子さんは、青い洋服を着せていただいて、よろこんで遠足に出かけました。

それから、この洋服は、どんなに引つぱつても、釘にひつかけても、少しも破れませんでした。ほんとに、つよくてかはいゝ洋服です。

（一九頁より）

する工夫を勵し、才智藝能なごは、その生得の器用にしたがつてをしへ成べし。或人の曰、三教皆明德を明かにする教なるに、儒道の心學ごのみ承はれば、かたむきなるやうにきこえ候は如何。曰、もごより三教ごもに、明德を明らかにするをしへなれども、仙佛の二教はその法世間に便り悪く、その上工夫取入がたき所あり。儒教は世間の日用にたよりよく、その工夫取入きはめてやすきゆへに、世間通用のためなれば、儒道の心學ごのみ論ずるなり。ひがめる私言にはあらず。」

（昭和十四年五月十四日）

幼稚園の遊戯と體育

出席者（敬稱略）

體育家

東京女子高等師範學校　佐々木　等
同　戸倉ハル
同　竹之下休藏
同　江崎トシ
東京女子高等師範學校附屬小學校　寺谷朝藏

幼稚園實際家

本郷・第一幼稚園　檜山京子
赤坂・仲之町小學校附屬幼稚園　齋藤小靜
京橋・月島幼稚園　蒔田ソヨ

本會側

倉橋惣三
及川ふみ

倉橋　今日は誠に恐入りました。何のお話を伺つてもよいのですが、初め一つ、子供の健康、殊に積極體育について幼稚園でいろ〳〵考へて居りますから、それに就て伺ひ度いと思ひます。之も問題が廣いから、順々に伺つて行くと致しまして、幼稚園では、大體普通に體操で行ふ事を遊戯でしますから、之も此の遊戯の前に體操をするがよいかどうかも又伺ふとして、取敢へず遊戯の事を伺ひませう。遊戯は何も體育だけのものではありませんが、此處では體育を主として伺ひ度いと思ひます。此處に幼稚園の遊戯を供給して下さる戸の開いた倉があります。（戸倉先生の事を斯う仰言るので一同笑聲）供給して頂きつゝ、それによつてどう云ふ體育效果が得らるゝかは人によつて種々の考へがあるのでありますが、幼稚園で行はれて居る遊戯を體育的に見渡して、大いに議論して頂き度いと存じます。

佐々木　幼稚園の遊戯については考へた事もありますが、實は幼兒の體操もドイツあたりではして居るのですが、それよりもやはり遊戯がよいのだと思ひます。之は倉橋先生專門の問題ですが、心理的、生理的身體の發育と結びついて、どうしても養護の時代ですから、知らず〳〵の中に身心共に發育するには遊戯がよいと思ひます。やはり子供が愉快になつて飛廻るリズムに依るのが適當だと思ひます。嬉々として居る間に自然と發達して居るのがよいのです。リズムに乘らないでする運動、例へば此

の幼稚園にもヂャングルヂィムがある樣ですが、更にそれよりももつとプリミティーブなもの、日本には未だ餘り其の設備がないのですが、幼兒の年頃は高い所を無性に喜ぶものなんです。テーブルの上にさへも上らうとします。それで考へたのですが、十糎の幅で長さ四米位の板を地上から二十糎の高さに備へつけ、其板に立つて手をのばして屆く位の距離に、其の板に平行にバー（横木）を作り附ける。それによつて板を渡つて歩く。そんな事がいいんではないでせうか。それは何故かと云ふと、子供は脚部の發育も大切であるが、上體の發育も大切なのです。然し子供に上體の發育を增す樣に要求するのは無理なのですから、そこで自然的に上體が發育する樣な設備がよいと思ふのです。

倉橋　其の板に上るには何か？　よぢ登りますか？

佐々木　低いから唯上れます、渡り乍ら棒を引張ります、それからパラレルバー（平行棒）の樣なもので、兩方の手をかけてぶら下るものもごうかと思ひます。危險かごうかは判りませんが上體の發育を促進させる低鐵棒も或はよいかも知れぬと思ひます。

倉橋　此處の幼稚園にはありませんが、一般には鐵棒はありますか？

齋藤　ございませんね。

及川　本校の嚶鳴舍の傍に低いのがありますね。本校に行くときつぢあれにぶら下つて喜びます。

戸倉　あれよりも、も少し低いのですね。

佐々木　幼稚園の子どもよりもう少し大きいのが七八人よくぶら下つて居ますよ。指導しなくても自然にあゝ云ふ事はしますね。

倉橋　低くすると云ふ意味は？

佐々木　屆き易い爲にです。

倉橋　及川さん覺えて居ませんか？　昔は此處の幼稚園にもあつたやうな氣がしますが……全面的に考へると云ふのではなく、問題と云ふものは常に或點を考へては變化して行くのですが、其の時も、幼兒の軟骨の關係が問題になりました。軟骨の硬化が調べられてないから、前腕の軟骨のみで全身を支へたり、振つたりするのはごうだらうか？……それは不可ないと云ふ迄に强くは考へられなかつたが、ごうだらうか？……と云ふ程度で止めになつた。それからずつとそんな事で濟んで居るのです。それから其の研究が發展もしない樣だし又しても知らないのかもしれないが……初めから鐵棒がないのなら事は簡單だが、兎に角さう云ふ歷史があるのです。

佐々木　さうですか。

倉橋　世間と云つても狹い一部の世間なのですが、さう云

ふ事の問題があるこ云ふ事は考へなければなりますまい

佐々木　上體の發育こ云つても、懸垂こ云ふ程でなく、唯手を上へ上げる丈でよいのです。それ丈で胸が擴張されます。

倉橋　胸を存分に擴げるこ云ふ事は、特別にしなければ自然にはなか〳〵出來ないでせう。

佐々木　全身を支へるこ云つても、大人が鐵棒をする程にはならないのです。足が下につかへて居ますから……

倉橋　之が一つの運動設備で、教練でするのではないから……

佐々木　技術を問題にするのではないのですから……

倉橋　遊戯が二つに別れて居る樣に考へられます。設備を與へて子供が自由に遊ぶ、其の指導が、子供にこつて特に體育の爲にして居るこ云ふ樣にも見えないが、知らず〳〵の中に大效果を擧げて居るんでせう。自然に子供が遊んで居る野原には、坂があり攀ぢ登り、木がありのぼり、川あり跳び越え、石を投げる等、あらゆる方面の自然の運動を誘ひ出す事があるが、幼稚園の庭、殊に都會の幼稚園の庭には凡そさう云つたものがありません。どんなものを設備したらよいかこ云ふ事に就いてはいろいろ意見もあるでせうが、之が難かしい問題なので、今の都會の幼稚園では投げて居るこ云つては可笑しいが、どうもならん事こして、そつこして居る樣であります。

佐々木　もう一つ、女學校卒業者の爲に體育クラブを興した時に、どうして皆の氣持を結ばせやうかこ思ひ、人間には破壞性があるので之を利用して、方々の土地から集つた人々を一まとめにして、物を倒す事から入つて割合こよかつたのです。幼兒もそんなのがよいのではないでせうか？

倉橋　具體的には？

佐々木　具體的に云へばボーリングなど、重いボールでなくてホッケー等の木のボールでもよし、子供の破壞性を利用するこ體育が自然にあがる。

倉橋　さう云つた樣な體をもむ、力の盛り上がる遊びが少いですね。

戸倉　少うございます。平らに云つたら競爭遊戯はどなたも研究なさらないこ云つては過言かも存じませんが、も少し爲て頂き度いこ思ひます、之によつて魂の教育もし度いのです。子供の精一杯を出させ度いこ思ひます。

倉橋　どう云つた競爭を樂しんでますか？

檜山　私の方では小學校こ一緒のリレーに入れて頂きます。大變に一生懸命に致します、尤も一生懸命でない子は入れないのですが……打ち込んで一生懸命するものが是非慾しいこ思ひます。簡單なので……

戸倉　本當にね。

倉橋　小學校のリレーに入れてもらふのは別として、實際問題として、どう云ふ事が幼稚園で行はれて居るでせう。

齋藤　今の幼兒はいろ〳〵要求して、小學校の一年生位の事は出來ますね、私の方では二度運動會があります。一度は表情遊戯をして一度は競爭遊戯をします。よくするのは、バスケットの紅白の玉を持つて、走り廻る玉入れ、輪を持つて行つて或る地點でくぐり次の人に渡す、それから一寸手がこむのですが、積木を持つて行つて或地點で置いて輪をくぐる、又次の積木を持つて行くと云ふのなど、そんなのを喜びます。又相當出來ます。

倉橋　出來ますか？

齋藤　出來ます、私の所では鐵棒や肋木が小學校との境にありますし一方には平行棒もあります。其處には行かない事にはして居ますが非常に行き度がりますし、又立派に出來ます、小さい子でもぶら下りますし大きいのは生意氣にくぐつたり致します。別に危ふげでもないのです。肋木ですと小學校に兄や姉が居るので五段目位まで上がります。模倣でせうね、滑り臺が物足りなくなります。それに又よい場所にあるのですからのぼるのです。私の方に足の悪い子が居ました。よく歩けないのです、發育が悪くて片言しか云へない子でした。一學期位は足許もフラ〳〵でヨチ〳〵して居たのです。それが一々見たら肋木へ三段目まで上つて居ます。危いとは思つたのですが折角のぼつたものをとめるのもと思つて見て居ましたら、踏みしめ〳〵降りて來ました。それから自信が出たのですか力强く歩いた樣です。何でもさせて見ればよいのだと思ひます。今其の子は小學校へ行つて居ますが、小學校の先生にも前以て申上げてありますからよく理解して手加減をして下さる事もあるのでせうが兎に角體操でも何でも致します。

倉橋　あの競爭。樂しい競爭を利用して魂の教育をすると して、其の競爭にいろ〳〵の仕方があるでせうが、ちやんと系統的に分類して考へた事がないでせうか。驅けくらは幾人でした所で自分を中心にして誰かと競爭して居る。皆と云ふが實は誰かとして居る。一人一人が相手である、其の外に佐々木さんのお話の、大勢よつて來てボールのとりつこをしたり、お祭に皆で御神木をとると云ふ樣なのは、誰と云ふ特定な相手があるのでなく、皆が其の目的物が慾しいので自然それが競爭になつたのです。驅けつこは勝ち度いと云ふ考へが强い。之が分類になるかどうかは知りませんが。勝ち度いと云ふ一つに集中して盛り上るのです。ワッショイ〳〵と有る丈の力を一杯に出します。我々も知らずに出します。さう云ふの

が小學校には相當あるでせう。運動會に棒倒しを見ますがやはりそれでせうね。然し幼兒には無理でせう。幼兒を皆はだかにしてお神輿ワッショイとしたら面白いでせう。

佐々木　だるま落しもよいですよ。

戸倉　玉入れも簡單で興味があります。

檜山　背中に籠をしよつて逃げ出すのは面白い。

倉橋　競爭に二つある樣に私は思ひます。

戸倉　ございますね。

倉橋　馳けつこをして居るのを見ると、勝てば後をむいて負けた人を見たり、遲れゝば前の人を見たり等して居ます。勝たうと云ふ意識が混つて居る競爭に過ぎません。大勢でワッとして居れば、玉入れなど結果は勝負ですが、爲て居る時に盛り上つて恍惚狀態ですから・・・・幼兒には無理でせうか？

戸倉　難かしいでせうね。

佐々木　無理つて、やらせ方によるのですよ、何でも・・・・

戸倉　個人よりも集團の方がよいのではありませんか？

個人の爭ひで終らせるよりも、如何でせう？　寺谷先生。

寺谷　結構ですね、小學校の低學年ではだるまを作つたのです、だるま落しをよくします。集團である事は結構です。

倉橋　靑年が大勢でボールを取り合ふ。鯉が一つの麩を爭ふ如く・・・・、あれは隨分運動になるでせう。あの樣に體の部分が分れない、揮身の運動の樣なものがいゝのです。

蒔田　團體競技は中にボンヤリして居る子は仲間には入れないのです。それが不思議にリズムだとそれに乘つて走ります、其の雰圍氣に普段は外れた子も入つて來ます。戸倉先生の「縫つて行く」は子供は喜びますよ。

倉橋　それは藝術的な子です。

戸倉　やつぱりね。

蒔田　ボールを摑まない子が居ますからね、やつぱり初めはリズムから入るのがよいと思ひます。

檜山　競爭ではなく遊びですが、丸鬼、あれは面白いですね。

戸倉　あれは宜しいです。全體が動きますからね。

佐々木　要目の中に入つて居ますでせう。

戸倉　五つ位理想的なものを作つて頂くとよろしいのですね。

倉橋　其處で其のお話の自由遊びの中へ各方面の效果をあげて行くのを問題をせばめて謂はゆる誰かゞ振りつけた遊戯、子供が原始的藝術的にするのと違つて、右の手をあげたら左の手をあげ、トン〳〵と二度廻つてと云ふ樣に順序の定まつた遊戯を一つ・・・戸倉先生をこゝによつ

たら被告にするかも知れませぬ。

戸倉 是非それは伺はせて下さいませ、それを樂しみにして居りました。

倉橋 それに就て、ごうも無茶な皮切りをしますが、今お話の設備によつて盛り上げる、汗びつしよりになる、さう云ふ蠻的競爭性を基礎として、本能として出て來るのを、又は盆踊り等、さう云ふ方のと較べると、振り付けられた遊戯は、も一つ思ひ切り力が入つて居ないのではないでせうか？　或は入らないでもよいものか、それに遊戯は體育ではありますが情操を主として居るので藝術的で優美になつて居る。グッと力が入つたところで、高々ドタバタ走つて何となく暑くなる程度で、揮身の力を湧き出づる所がありません。綺麗な踊が主であります。例へば藤娘等では決して盆踊り的ではありません。之は致方ないですか？　斯う云ふものですか？　大きい年齢の子供には與へられた遊戯は相當ありますか？

寺谷 ありますが運動量が問題です。充分に與へられるものもあり然らざるものもあります。取扱ふ立場を異にしても居ますし。

佐々木 運動量の事を考へるなら回數を多くするのがよいのです。

寺谷 それでいゝのではないかと思ひます……。小學校の立場から、幼稚園から來る子供を見ると云ふ立場から、何と云つても足が強くなければいけません。二年なら二年の間幼稚園に居れば、或程度脚力を作つて慾しいと思ひます。リズミカルな遊戯にも、走つたり、殊にスキップがよいのですが、之を比較的多くして慾しいと思ひます。所謂〃踊〃が其のテーマによつては立つた儘動かないで表情するのが比較的多いのですが、出來る事なら兩足を動す樣、跳躍、ランニング、兩足とび等の運動を、踊りのテーマをこわさない樣に入れて脚力を養つて慾しい。たとへそれが出來ないとしても、遊戯は體育的立場として結構な事だと思ひます。慾を云へば脚力增進の立場からそれに留意した動作が慾しいのです。

倉橋 あの三番叟はいゝですね（笑聲）あれ位に運動したらいゝですよ、リズムも入つて居るし、一つ幼稚園でしますか（笑聲）いつもそう思ひます。

戸倉 先生に詞を作つて頂きますよ（笑聲）

倉橋 伴奏も必ずしもピアノでなくとも鼓とか太鼓などを打樂器でするといゝのです。あれは大勢で出來ないでせうか？　三番叟が濟んだら鞍馬踊りとか何とか……皆烏天狗の樣にするでせう。さうすればもり上り三番（笑聲）操三番で足が地につきませんね、さうすればリズムも入つて來る……よく普通の場合に、幼兒もだん〳〵大きく

なると男の子は遊戯を好まない樣ですが如何でせう？

蒔田　はい、やはり餘り喜ばない樣です。

及川　でも此頃は大工さんとか工夫さんなどですから、やり度くない等と云ふ人はありません。

戸倉　題材にもよるでせうね。

倉橋　題材もさうですが、運動量の方から精一杯と云ふ所が出てないのです。私の樣に本當の藤間の極意を知つて居る者は(笑聲)なだらかに流して踊つて居ても、充分力は籠つて居ますが普通はなか〳〵さうでない。固い嚙み切れないビフテキ許りが榮養ではありませんから。……男の子には題材の方からばかりでなく、運動量の方から……。

寺谷　精神的にも肉體的にもイナッフの感がない。

倉橋　さう〳〵〳〵實際さうです。イナッフと云ふ感じがありませんね、菊五郎のする藤娘は靜に踊つて居る樣でも汗びつしよりで、それは大變でせうが、子供にはそれは望めませんから運動量許りの問題となります。

及川　スキップを普段は二三回此の遊戯室のまわりを廻らせますが、時々くたびれる迄してよいと云ふと大喜びをします。多い人は十何回もまわりました。

倉橋　時々拜見して居ますがごうもイナッフの感がありませんね、長い間待つて居て、やつと自分の番がまわつて來てチョコ〳〵として仕舞つてもう終りですから……。

寺谷　教育全般がさうではないでせうか？　子供の實情事實を摑んでない。遊戯許りでなく全部が不徹底です、無論今及川先生の仰言つた樣に、させれば喜んですること云ふのは『充分の快感』なのです。今迄之でいゝんだと云ふのは大人の考へで、子供はし度くてもさせられなかつたのです。其前に運動のリズムと云ふものは大切です。

及川　この遊戯室のまわりをスキップで十何回まわるとへト〳〵になつて仕舞ひますが、其の後の始末はごうしたらいゝでせう？　唯腰かけて居ればよいのでせうか？

佐々木　子供は大人と違つて生理的にすぐ恢復します。

倉橋　子供は充分させられゝば嬉しいですよ。普段は丁度盛り上り來たつた時に『よく出來ました』等と云つて止めさせられてしまふのですから……それぢや何時迄たつても醉ひませんね。

及川　本校へ行くとグラウンドのまわりを走りますが多い子で二周すると草疲れて青くなつたりします。さうするともうこちらは心配で……無理でせうか？

佐々木　さうですね。青く又は異常に赤くなつたりするのは少し無理かもしれません。

寺谷　監督してさへ居れば、萬が一に起る危險をのみ慮つて、危險防止と云ふ事が八割位まで入つて、もう少しと云

ふ所迄やつて後しないと云ふ事が多かつたのではないでせうか？　幼稚園に幼兒なり先生がラフでないから餘計出やう〳〵とするのを抑えてすましては居ないでせうか？　小學校でもさうです。けがをさせては困るので、萬が一を慮つて逃げ出やう〳〵とするのを抑えて居るのではないでせうか？

倉橋　本當にさうです。

寺谷　子供は走る、もつと走るかも知れないが或所でとめる。

倉橋　それは教育の智的な方面でもさうでせう。知的な方はそんなものかと思つてくわしくは判らないが、運動の時はすぐわかります。

寺谷　體操は一つの事を五六回すると『止めー』と興味の出ない中に止めさせられる。遊びは熱心にやるから自ら興味が湧く人爲的にやる事は兎角さうなる。さうしなければいゝのだが……。

倉橋　之は一つは遊戯の運動的動かし方と云ふよりもさせ方でクライマックスには達しない樣ですね。

寺谷　幾つかの教材があると、鳩ポッポなら鳩ポッポを覺える迄はさせるが、一度覺えて仕舞ふとそれで滿足して次の教材へ行く。むしろ覺えてからドン〳〵やつて、自由に出來る樣になると興味が出ます。さうすれば眞劍でやります。教材をマスターする樣になればよいのです。

倉橋　運動の一つ〳〵の仕方によつて計畫された效果までして、後をしない。

佐々木　それから發育程度を意識しなくては不可ないのです、それを無視して不注意の爲に萬一の危險が起つてはなりませぬ。

倉橋　怪我をするのは、運動過度と云ふ事は、此の運動は五六歳位の子供は何處迄をしたらよいか？　それを合理的にお示しが願ひ度いが。それに對する細かな注意があれば出來るでせうね。

佐々木　目で見えますよ。

寺谷　經驗です。

佐々木　眼力ですね。

倉橋　經驗がなければね、……ごうも先刻の、振付けられた遊戯が、力がない事は、遊戯其の物よりさせ方にある事を教へられましたが、遊戯其の物にもクライマックスになるものとならないものがあるでせうね。

佐々木　昨日兵隊遊びの遊戯を拜見しましたが、あれは誰も厭だと云ふ人もなく皆愉快さうにして居るが、體育的にもよいと思ひました。やはり振のつけ方にもありますよ。

倉橋　つまりさつぱりした上品な吸物ではごうも腹一杯と

は行きません。さつま汁とか云ふものだと遂食べて仕舞ふ。つまり餘り清汁にならない幼稚な所を刺戟する味だから、させ方よりも、それ自身の一切が子供に入つて來るのです。

檜山　兵隊の寢撃ちは喜びます。

蒔田　お話は違ひますが、子供の上靴のゴム靴を板の間の上で脱がせて見度いと四月から考へて居るのですが、健康上どうでせう？　園長先生はよいと仰言るのですが、若い方達がどうも體裁が悪いと云はれまして……。

齋藤　私の方でも板の間を脱がせてやり度いのですが油がひいてあるのでどうにも駄目なのです。實際スキップの時等、靴が氣になるのですが、…板の上にござを敷いてそこでベルト式のすべり臺や、積木をさせたり、又ヂヤングルヂムは靴をぬいでのぼる事にしてあると、それを大變に喜びます。

倉橋　上靴を脱ぐと云ふのは運動がよく出來る爲にですか？　又は足の裏を觸れさせやうと云ふのですか？

蒔田　運動に便利と云ふ事もありますが、足の裏を板に觸れさせるのが主です。

寺谷　それは大賛成ですね。若い人が不體裁等と云ふのは可笑しいですね。

佐々木　それこそ不體裁ですよ。

蒔田　それに靴下も破れると云ふのです。

檜山　靴下もぬいで仕舞へば……。

倉橋　及川さんもいつかさう云ひましたね。

及川　私のは經濟的理由が主なのです。

佐々木　ごつちから見てもよい事ですよ。

寺谷　皮が厚くなります。

檜山　夏の幼稚園の子供ははだしにしておきますが、普段の子供はどうも弱々しくてはだしに出來ません。

寺谷　私は大賛成です。

倉橋　今の遊戯は足の皮だけでうまく行きますか？（笑聲）

戸倉　參りますですね。

寺谷　一體ヘラ〳〵して足の弱い子は必ず包みすぎて居ますよ。

及川　そんなのは大抵汗を出して居ますね。

寺谷　さうして風邪を引くのです。

倉橋　今迄の種々なお話を具體化して、幼稚園の方の注文を御問屋の方へ、斯ういふ遊戯があつたらと云ふ樣な事を何卒……。

戸倉　何卒……何卒仰言つて頂き度うございます。樂しみにして來ました、また何なりと取入れます。

齋藤　男の子の學齢の近いのは勇壯活潑な魂を打込んだのを好みます。女の子は人形等を題材とした易しい氣持を

要求する。それで幼稚園の遊戯としてお願ひし度いのは、男の子も女の子も、共に大和魂の入る樣なピンとした、例へば〃金太郎〃の樣に簡單でも底を行く樣な：と同時に、男は男でもつと力を入れたもの、女は女で優美なのをとよく考へます。私は遊戯が好きなのですが自分では出來ませんから若い方達を方々の講習に出したり、又話合つたりするのですが、私の幼稚園でする遊戯は實際今行きづまつて居るのですよ。

倉橋 今日どつちがより多く缺けてるか、又どちらが急務でせう。

齋藤 今迄は律動遊戯は勇壯で、後は表情遊戯の靜なものと云ふ工合でした。でも戸倉先生のは本當に子供が喜ぶのですが：：やはり他のもので思はしくないものがあります。殊に時局柄必ず魂を入れてする樣なのがやり度いと思ひます。少し現在では其の點が足りない樣に思はれます。

檜山 私も一つ、日本舞踊でアクセントを入れるあの足でトン〳〵と踏むあれを喜ぶ樣に思ひます。繩とびも幼稚園でも出來ますからあれも使ひ度いと思ひますね。

倉橋 アクセントとはどう云ふのですか？

戸倉 まあ例へば、一拍目を休む樣な時足でトンとふむ樣な：：。

藤田 私の園の子供は汽車の遊戯でも、唯ダラ〳〵とするより「汽車が」「走る」と云ふ樣に拍子をとります。

戸倉 リズムに合せるのですね、それは、今のは二拍子だから强弱々々と行くのが、曲に合つて子供が喜ぶのです。

倉橋 それは少いんですか？ アクセントとは足拍子の事ですか？ 滑らかにして居る時に活を入れるんですね、それぢやいよ〳〵はだしにする必要がありますね。

佐々木 專門家がですか？ （笑聲）

及川 だるまさんの遊戯は喜びますよ。

戸倉 昨日拜見して居る、皆さんが臨機にかへてして居て下さるのを見て大いに得る所がございました。

倉橋 未だ御注文ありますか？ 遊戯の動きでせうか內容でせうかね、今のは：：。

戸倉 リズムを活かすんでせう。それによつて活動的にするのです。

倉橋 斯う云ふのは？ 一つの遊戯の終りつゝ續く、繰返しと云ふのでもなく、若し何なら地球の果まで踊り拔くと云ふ樣なのがないでせうか？

戸倉 私それをする分ねらつて居るのですが、一つ終つて次から次へと呼び起し、倦まず飽かずつゞける、例へば盆おどりの樣に：：それが少いのでございます。

倉橋 遊戯が遊戯を產み出し、脈動して續くのです。

佐々木　然しそれだつたら渾身的の運動では續きません。盆踊りは輕いからつゞけられるのですが。

倉橋　前のは前のでおいて、之は別にしませう。さう云ふのがありますか？

江崎　ございますね戸倉先生。南京玉とかオフネとか……繰返して居る中にこそ感じが出るのではないでせうか？其中にエナッフの感じが出ます。

倉橋　くぎりは？

戸倉　終つて終らぬ、何處迄も續く、之を最近痛切に感じて居ります。一つ終つて、扇を置いておしまひにすると云ふのはずい分拙ない……そう云ふ御注文なら大いに意を强うする事が出來ます。

倉橋　皆やつて居ますか？　そう云ふ樣なのを……。

戸倉　數年前でございましたよ、寶探がし、鳩ポッポ、さくらなど致しましたが……。

倉橋　リズムなるものが、……ごうも言葉がはつきりしすぎますが、所謂〃日本的〃とでも云ひませうか……それが入つて居ますか？

戸倉　それが、さくら〳〵やかごめ等昔からの日本のメロディーは大人にも懷しいよいものです。一昨年あたり明治初年項からの童謠を集めた事がございますが、又今年もし度いと思つて居ります。

倉橋　此間ラヂオで紙恭輔が編曲でしましたね、相當いゝのが種々取り入れてありました。

戸倉　人樣が、遊戯と云ふと新しいもの〳〵をと心懸けていらつしやる樣に思へます、一ぺんやればもう棄てると云ふ樣なのが普通ですが、いゝのでさへあれば永久に使つて慾しいと思ひます。例へばさくら〳〵等は非常によいものなのに古いからと云ふ風に考へて居るのはいけないと思ひます。古いのゝ中からいゝのを永久に傳へ度いのです。

倉橋　ごうも德川時代からのは、言葉の意味が凝つて居ます。下等と云ふ人もありますが、下等か上等かは知りませんが、とにかく凝つて居ます、〃となりの小母さん何とか〃と云ふのなども、江戸文學の趣味の極致だから、子供に歌詞は合はないでせうがメロディーにはいゝものがあります。

戸倉　此間放送した中にもずい分いゝものがございましたね。

倉橋　かなりトン〳〵拍子でしたね、……何か御希望は？……遊戯の外に……所謂遊戯、渾然たる動作で何處で何して居るのか判らない樣なものゝ外に、今は手、今は足と云ふはつきり區別のついた體操は如何でせう？

佐々木　模倣ならよろしいですが大人に要求する樣なのは

餘り……。

倉橋　さうですね、どうもさうらしい。幼兒の生活から見ると確にさう思へます。若し遊戯が餘りに自然的である樣な傾向なら、あの運動、この運動が滿されないと云ふ樣な事はないでせうか？勿論無きを希望しますが……。

佐々木　それはさうですね、然し自然と……若し行ふならば極く簡單な體操を遊戯的に行つたらいゝでせうね。

戸倉　模擬體操と云ふ樣なのがあつたですね。

佐々木　擬動。

戸倉　リズムに乘つてする。例へば鈎瓶を鈎るとか舟を漕ぐとか云ふ……旋律にのせて、例へば舟をこぐ動作をするなら、舟をこぐ音迄がちやんと入つて居る樣な曲でするのです。此間幼稚園でしていらつしやるラヂオ體操を拜見しつゝ、之を何とか興味づけたらいゝがとつくぐ思ひました。『さあ、舟をこぎませう……今度は何ですよ』と子供の氣持を興味づけて……。

倉橋　それは遊戯ではないですね。

戸倉　此の夏そんな樣なのが出來たらいゝと思つて居ます。

倉橋　體操させても、何も其の意味が判つてないのですからね。

佐々木　體操には體育的な意味があります。

及川（齋藤先生に）　ラヂオ體操していらつしやいますか？。

齋藤　小學校で致しますから時に其のうしろに並べてします。幼稚園としては極く遊戯的にレコードをかけて自由遊びの中で致します。やるのが本體でなく子供が喜びますから。

倉橋　生活內容を入れたの以外は特別にする必要はないでせうか？。

佐々木　必要はないでせうね、……まあ今の所……。

倉橋　お茶で乾杯しませう。大いに意を强うしました。では此のへんで……。

〔五月三日—於附屬幼稚園遊戯室〕

雨の日の幼稚園

自由遊びと手技

及川ふみ

四月、五月と晴れ渡つた大空の下で思ふ存分に、戸外で飛び遊んだ幼兒たちも、そろ〳〵雨の日の屋内遊びを餘儀なくされる頃となつて來た。

室内遊びの多いこの季節の保育は又特別な案のもこにあみ出される事であらう。保育室の比較的廣いところは別として、普通の幼稚園では屋内ばかりの保育になると遊ぶ場所が大いに制限されて、ごく狹い所で大勢の幼兒たちが遊ぶことになる。即ち幼兒が幼稚園生活のうちで最も長い時間を過す自由遊びがその狹い場所で過さなくてはならない事になる。幼稚園でする保育項目のうちのどれを考へて見ても、短きものは數分ですむ事であるし、比較的時間の長いものでも三十分位がその限度の樣に思はれる。かりに四時間半の保育時間としても、晝の食事及び保育項目その他の事で二時間を費すとしてもあとの二時間半位は自由遊びの時となるのである。時間は長し、幼兒の最も樂しむ時間でもあるこの自由遊びの指導が、屋内保育の出來不出來といふ事になるのではなからうかと考へられるのである。しかもこの自由遊びの指導が一番自然でやさしいやうで又一番むづかしいものでもある。

極めてわづかの幼兒の數で、適當な屋内の廣さがあれば自由遊びの指導も比較的好都合に出來る事であつて、自由遊びと各保育項目とが渾然一體となりてこゝに理想的の所謂誘導保育が出來てくるわけであるが、三十人或は四十人なりの多數の幼兒を一人の保姆の手で、自然に誘導して狹

い場所で遊ばせるといふ事はなか〳〵容易のことではないのである。

しかしながら實際の場合を考へて、狹い保育室も急には廣くはなる事もむづかしい事であり、保姆の手もこれと同樣に增加されず、しかも一組の幼兒數も今以上減ぜられないといふ事情のもとにあれば今の場合としての最善の道をとつてゆかなければならない。

自由遊びはその名の通りに、全く幼兒の自由に遊ぶのに任せておくべきであるが、幼兒の自由で面白く、樂しくしかもこちらでも何の懸念するところもなく遊んでゐる時もあるが、時には遊び方が不充分であつたり、或は遊ぶ調子にのつて往々脫線してしまつてやむなくその遊びの方向を轉換させなければならない樣なこともありがちなことである。この點自由遊びは自由放任といふ事とは全く別の事であつて、いつも指導し、觀察してゐなければならないのであるといふ事は云ふまでもない。自由遊びの指導が容易の樣で容易でないのも實際問題としておこつて來るのである。

自由遊びと誘導保育との連りが密であると同樣に、誘導保育と手技とも亦その關係が密であつて、誘導保育の中心になるものは多くの場合に手技の樣に思はれる。つまり手技を自由遊びの形にまで容易にする事が自由遊びを充實させる一つの方法でもある事である。

こんな意味から手技の材料をえらぶのに如何なるものをとるべきかを考へて見ると

出來るだけ材料を簡單なもの

幼兒だけで實際に出來るもの

出來上つたものが幼兒たちの自由に使つて遊べるもの

製作材料が豐富に與へられるもの

などが主なる條件であらう。

製作に簡單なものであれば一々保姆の手を要さなくても自由遊びの中にも入つて容易に出來る事でもあり、又出來上つたものが幼兒たちの自由遊びの材料ともなれば尙更實際的でもあるのであらう。

雨の一日日ながの保育にも自由遊びの形に手技がとり入れられたならば幼兒もよろこんで、樂しく長い時間を過すこともあるであらうし、これを指導する保姆の心持ちもよりどころがあつて取るべき一つの道がつくのではあるまいか。

幼兒と一緒に歌ふ唱歌も美しい聲で歌へる先生であればそれ以上のことはないのであるが、これをすべてのものに望むべきでないと同樣に、手技などにしてもすべての保姆が器用人ばかりといふわけにもゆかないのであるが幼兒たちの喜ぶものは、器用に出來てゐなくてもよいもので、要は幼兒たちを如何にしてよく遊ばせるかを工夫するところ

にあるのであらう。

こんな意味からして、屋内保育の多い雨の季節には特別に自由遊びと手技との考究を一層深めて幼兒たちの自由遊びの指導を充實させてゆきたいものである。

雨の日の觀察あそび

清水光子

落付いて物をみることがどんなにいゝことか面白いことかを知らせると言つては過ぎるが樂しんで物をみる習慣をつけたいと思ふ時、雨の日をこれ幸とする事もある、きのふも今日も雨で、內の中だけで遊ばなくてはならないで、あふれる勢力がはけ口をみつけてうづ〳〵してゐる時、一方では身體的に一ぱいにそれをみたしてやり、又一方では閉ぢこもつた仕事にならない明るい觀察あそびをさせる事が一つのはけ口にもならうかと、今迄してみた事を二つ三つ、皆樣の御批評をいたゞき度く書いてみる。

(一)あてつこあそび

子どもは腰掛けてゐる。先生が「今先生がこのお部屋のどこかにあるものを考へてゐます。何だがみんなであてるのですよ、どんなものだかを言ひますからよくきいていらつしやい」と前置きして例へば「少し細長く丸い形で上に穴があいてゐて、色は白いのです、そして少し光つてゐます。さわるとつめたいでせう。土でこしらへたものですつて、これはきれいなお花が大好きなのです」。「花瓶でせう」といふやうに當てさせる。色や、形、動き、材料などを注意して言ふやうにする。

(二)ご商賣ごつこ

町でよくしてゐる遊びで、これもあてつこ遊びであるが。甲乙二組に分れてどちらか先に、豫め相談してきめておいた商賣の樣子のまねをみんなで他方の人達の前でするのである。例へばお百姓さんなら鍬を擔いで畑にゆき、たがやす樣子種子をまく樣子かり入れる樣子をしてあてさせる。うまく當つたら大いそぎで自分の椅子にもどる。もどらぬ前に相手側につかまつたらそちらの組に入ることにする。この遊びは町でしてゐる時は甲「今日は」乙「いらつしやいませ。お國は」甲「日本」乙「御商賣は」といふ應答の後にまねが始つてゐる。間接の觀察であるが商賣について子ども

らしい表現をして驚かされもし、こちらも面白く遊んでしまふ遊びである。

(三)繪の切り抜き

繪による觀察は觀察の邪道であらうけれど又これには理屈をつけるとして雨の日にこんなこともよいかと思つてしてみた。よい繪を、成可く漠然とでなく、動物とか、車とか、船とかいふ樣にはつてみんなにみせ、(それが許されるなら切抜いてもいゝけれど)見て繪にかいてそれを切り、ハトロン紙か、包紙などを利用してみんなのをまとめて繪本にする。動物繪本、乘物づくしといふやうに。

遊戯

雨の日の遊戯といつても、ピアノに合はせて行ふ所謂遊戯は、特別に變つたものをすることもないし、やはりいつもしてゐるものをする樣になると思ふ。たゞ主題が雨に關するものは特にこういふ日にしてゐるものであらう。雨の日は兎角幼兒の運動量が少いといふところからそのありあまる力の持つて行き場に困る、そこで遊戯も成可く運動量の多いものがのぞましい。又思ひきり力を出させることの

その他雨の日には兎角おへやがこもり勝ちであるから一度はよく窓をあけて、外を眺める事もし度い。お天氣に氣をつけてその日のお天氣を色で表して毎日はりつけてこの週は晴が何日、雨が何日といふ樣に氣をつけることもし度いことである。この頃よく咲く花しようぶに赤インクを吸はせてみるのも面白いであらうし、きぬ絲草を水盤に蒔いて樂しむのも五月雨のころがふさはしい氣がする。又幼稚園に物理を持込むのも如何かと思はれるが先生が手品をして簡單な不思儀をしてみせるのも樂しい一時が過せる面白いことであらう。

小島その

出來る競技的遊戯を是非ともしたいと思ふ。幼稚園によつては遊戯室は無くて小學校の體操場を用ひてゐるところもあるし、又遊戯室はあつても雨の日はその廣い部屋を一組で獨占するといふことも出來ないと思ふので、特に遊戯室でなくとも普通の保育室で充分に面白く遊べるといふ遊戯を、日頃幼兒と一しよに工夫してみたものゝ中から二つ三つを次に記してみる。

うづまききょうそう

準備　床の上に白墨でうづまきを二つ左右にならべてかいておく。大きさは部屋の空地によつて適當にし、線と線との間はあまり廣くない方が遊びに興味がある。二つのうづまきから少しはなれたところにスタートの線を引いておく。

方法　うづまきの上を線を決してふまぬ樣に進んで中心まで行き又元に戻つて來る。早く出來た方が勝なのだ。これは二人づつで行つても面白いが、全體の幼兒を紅白の二組に分けて、リレーの樣にして行ふと實に面白いものである。途中で線をふむだ場合は又戻つて出直すのである。

おしだしすもう

準備　床の上に直徑五十糎位の圓形を二つ相對してかく、圓と圓との距離は五十糎位にする。

方法　たゞ押し出すだけのことで相撲の遊びをしてみる。ボールドに番付をかいて、力士を東西に分けて席につかせる。呼出しや行司の役をきめて所定の位置につかせる。一人づつ呼出し、二人が各々の圓形の內に入り兩手を前にのばしお互に兩手をつき合はせて相手を圓の外に押し出すのである。勝負があつたら行司は軍配を上げ、勝つた者の名前の下には白いまるをつける。

水泳ごつこ

準備　床の上に適當な長さのござを二枚、少しはなして並べて敷く。

方法　ござの一方の端をスタートとして、二人並んで出發の合圖と共に泳ぎ出す、腹ばひになり泳ぐ樣子をして這つて行くのである。一方の端に著いたならターンして又元に戻つて來る。早い方が勝なのだ。これも紅白に分れてすると大そう面白い。ござのない時は、床をきれいに拭いて、一定の幅に線を引いて行つてもよい。この樣な一寸したことでも、子供のよろこび方、熱中ぶりは大したものである。

うさぎとかめ

準備　全生を同人數に二つに分けて、兎組、龜組、としてそれぞれ一列圓形に手をつて並ばせる。一人一人の立つてゐる位置には、兩足の入るだけに小さいまるを、かきならべると一層はつきりしてよい。

方法　出發の合圖と共に、兎組の先頭も龜組の先頭も全速力で走り出す、しかし兎は兩足をそろへてとび、龜は手をついて四つ這ひに這ふのである、そして各々圓周を一まはりして自分の位置に戻ると共に次の者が出る。こうして圓周上にゐる全部のものがこれを早く行つた方の組が勝つのである。一回終つたら次は兎組は龜になり龜組

は兎になつてこりかへて行ふこよい。

最後に雨に關した遊戯こして、昨年夏の講習に戸倉ハル先生の御發表になつた幼稚園新唱歌の中の「雨」を一寸思ひおこしてみる。

アメ

準備　一列圓形

一　アメガアメガフツテキル

キイテゴランヨオトガスル

右手上に上げ、下におろすこ同時に左手を上に上げ、下におろすこ同時に右手を上に上げる、これをくりかへし行ひ、雨が降つてゐる樣をあらはす。各々八回づつ合計十六回行ふ。

ピチピチパシャパシャオトガスル

五指をひろげ、やゝ掌をそらせて、ピチピチパシャパシャこ拍手しながら自分のまはりをまはる（八回手をうち八歩あるいて一回轉するわけである。）

ホラ

兩手を上にあげる、體をずつこ上にのばす心持で（位置は動かず圓心をむいたまゝ。）

ヤツデニ

兩手を下におろす。

フツテ　キ（ル）

ホラの動作こ同じ。

（キ）ル

ヤツデニこ同じ。

ハレタラ

兩手五指を開き胸の高さに持つて來て、キラキラこ掌を動かす（左右手首から上をまはす。）

ハツパガ

兩手を急いで下におろす。

ヒカルダ（ロ）

ハレタラこ同じ動作。

（ダ）ロ

ハツパガこ同じ。

二　アメガアメガフツテキル

キイテゴランヨオトガスル

一番こ同じ。

ボツボツボツボツオトガスル

五指全部を第二關節より曲げて（卽ち極かるく手を握るわけである）掌のこころで拍手しながら（ボツボツこいふ音が出る）自分のまはりをまはる。

ホラオイケニフツテキル

一番のホラヤツデニフツテキルこ同じ。

キンギヨハドウシテキルカシラ

手を左右に上げ圓心に向つて靜かに進んで行く、進むと共に自然に隣同志肩に手をかけ合はせる事になる。金魚はぐうしてゐるでせうかといふ心持を充分に出しながら靜かに圓心に向かつて歩くのである前奏の間に元の位置に戻る

談話唱歌

舌切雀

空想家、夢想家であるこどもたちは、お話をきくことが大好きである。お話をきいてゐる時の眼、普段と變つたその顔は、全くお話の世界に入りきつてゐるからなのである。

お伽の國へ心をはしらせるばかりでなく、こどものすべてを、そのあたりの空氣をそつくりそのまゝお伽の國へ移すといふことはどんなにか樂しいことであらう。

劇あそびといはうか、對話劇といはうか、その種類の遊びは非常に喜ばれる。しかし又、いはゆるせりふを言ひ、しぐさをする事は相當に難しいので、歌に合はせてお芝居をする唱歌劇の方が小さいこどもにはやりよいのではないであらうかと思はれる。そこで、おはなしの筋のまゝの唱歌、即ち談話唱歌(及川先生がおつけ下さつたもの)といふものを作つてみたのである。

次にかいたものは、本當に出來上つてゐないものである。舌切雀のおはなしを幾つかの部分に區切つて、うたへる程度に構成してみたものである。全體を唱歌としてうたつてもよいし、劇として取扱つてもよいと思ふ。

お爺さんは山へ柴刈りに、お婆さんは川へ洗濯に出掛けた留守に子すゞめがのりをなめてしまつた、お婆さんがそれを怒つて子すゞめの舌をきる、そこまでを序詞として說明的にみんなでうたふ。

舌をきられた子すゞめが痛い〳〵こなきながら家へとんで歸る、お爺さんが雀のお宿をたづねて行く、と子すゞめ達がお迎へに出て招じ入れる、これを對話的に運ぶ。

次におもてなしの雀おどりは、男兒にうたはせて、女兒に遊戯をさせてもよい。

樂しく遊んでから、お爺さんが小さいつゞらをおみやげにいたゞいて家へ歸るまでは、お爺さんとすゞめ達がかは

町田行子

舌切雀

序詞---斉唱

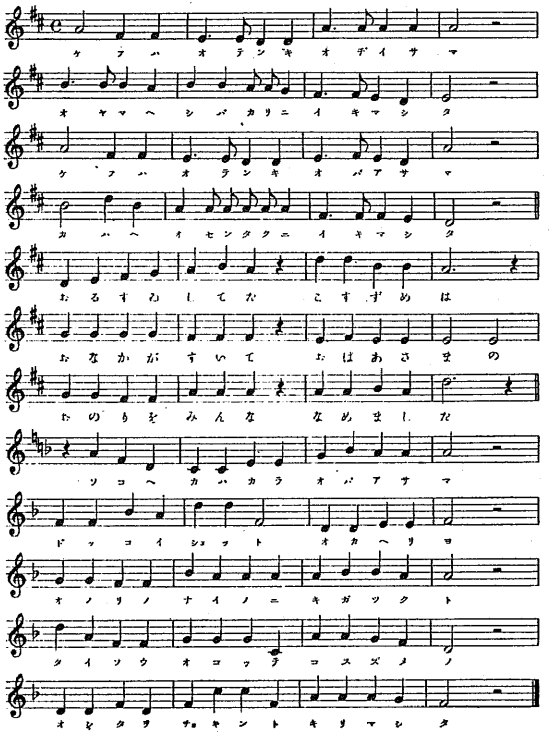
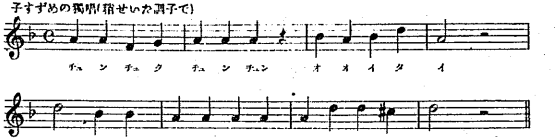
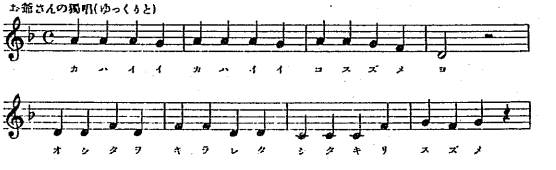


図11

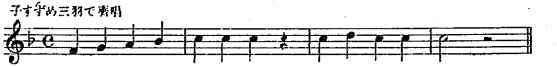
子すずめの鴉唱(箱せいか調子で)



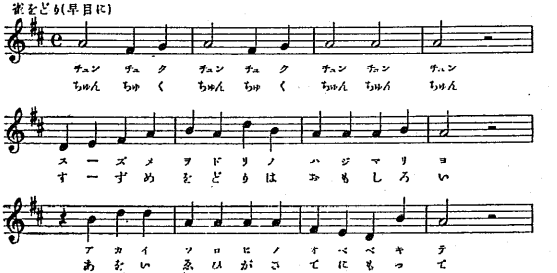
お爺さんの鴉唱(ゆっくりと)

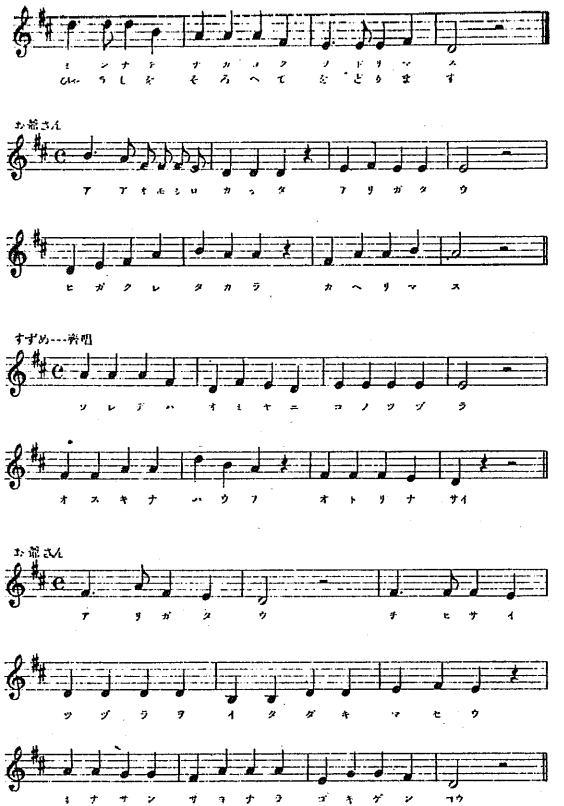


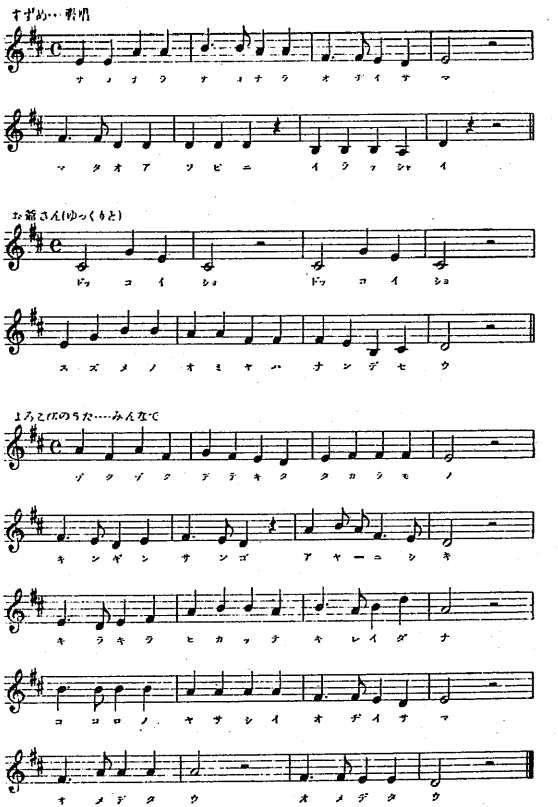
子すずめ三羽で斉唱



雀をどり(早目に)




ミンナデ ナカヨク ソドリマス
みんなで なかよく そだてます
お爺さん
アアモシロカッタ アリガタウ
ヒガクレタカラ カヘリマス
すずめ---唱
ソレデハ オミヤニ コノツヅラ
オスキナハウフ オトリナサイ
お爺さん
アリガタウ チヒサイ
ツヅラヲ イタダキマセウ
ミナサン サヨナラ ゴキゲンヨウ


すずめ…唱
サヨナラ サヨナラ オダイサマ
マタオアソビニ イラッシャイ
お爺さん(ゆっくりと)
ドッコイショ ドッコイショ
スズメノオミヤハ ナンデセウ
よろこびのうた……みんなで
ゾクゾク デテキタ クカラモノ
キンギン サンゴ アヤーニシキ
キラキラ ヒカッテ キレイダナ
ココロノ ヤサシイ オダイサマ
オメデタウ オメデタウ

る〳〵歌ひかはす。おはなしの方では、家に歸つたお爺さんはお婆さんと二人でつゞらをあけて大喜び、早速お婆さんもすゞめのお宿を探ねに行くのであるが、こゝではそれを取材しない。よいお爺さんのつゞらの中から寶物がごつさり出て來た、お爺さんをかこんでみんなで歡びの合唱をする、それでよいのではないであらうか。

今日はお天氣　おぢいさま
お山へ柴刈りに行きました
今日はお天氣　おばあさま
川へお洗濯に行きました
お留守居してた　子雀は
おなかがすいて　おばあさまの
おのりをみんななめました
そこへ川から　おばあさま
ごつこいしよつとお歸りよ
おのりのないのに氣が付くと
大層怒つて　子雀の
お舌をチョキンときりました

チュンチュクチュンチュンおゝいたい
早くお家へ歸りませう

かはいゝ〳〵子雀よ
お舌をきられた舌切雀
お宿はどこよ　どこにゐる

お宿はこゝよ　おぢいさま

チュンチュクチュンチュクチュンチュンチュ
雀踊りの始りよ
赤いそろひのおべべ著て
皆で仲良くおどります
チュンチュクチュンチュクチュンチュンチュ
雀踊りは面白い
青い繪日傘手に持つて
拍子を揃へておどります

あゝ面白かつた　有難う
日が暮れたから　歸ります

それではおみやに　このつゞら
お好きな方を　お取りなさい

ありがたう

小さいつゞらをいたゞきませう
皆さんさよなら御機嫌よう
さよなら〳〵おざいさま
又お遊びにいらつしやい
ごつこいしよ　ごつこいしよ
すゞめのおみやは　何でせう

ゾク〳〵出て來た寶物
金銀　さんご　あやにしき
キラキラ光つてきれいだな
心のやさしいおぢいさま
おめでたう　おめでたう

このことばは實習科生四人が作つたものであり、ふしは私がそのことばに合はせて、ただ自然のメロディをあらはしたにすぎない。音樂ではない。曲にはなつてゐない。ふだんの會話の波を五線上にあらはしてみたゞけのものである。何かの御參考までに、とも言へないものである。たゞ小さなおへやでの一つのあそびを、カーテンのすき間からちよつとおのぞき下さいませ。

雨の日

倉橋惣三

○雨の日は幼稚園の禁物と決つて居たりするが、さう嫌つてばかり居ても仕方がない。雨の日は雨の日らしい一日がもてないものだらうか。

○一年三百六十五日、雨の日は此外とばかりも言はれまい。北緯何度、溫帶の國として、殊には支那大陸の方の關係から、毎年のことに昔から決つて居る梅雨と言ふものを、毎年新らしい特別のことの樣に忌んでばかりも居られまい。

○傘があり、足駄があり、合羽がある。幼稚園の保育にも雨の日の用意は、ちやんと初めから出來ていゝものであるまいか。殊に子供の方では、大人が屈托する程に雨の日を困るものでもない。それを子供にもちあぐませるのは、吾等の方に用意が足りないせいではあるまいか。

○雨日またよしと茶人めき詩人ぶる譯ではないが、うす暗い室に聽くあまだれの音、窓硝子の外に見る桐の雨、なかなか捨て難い趣のあるものでもある。それが子供には又子供らしく、おもしろい印象のあつたりするものである。やゝ、しんみりとしたお話、しづかなお客さまごつこ、或は部屋のうす暗さを利用した影繪、幻燈、人形芝居も興があらう。

○雨のいろ〳〵には、それ相應の違つた味もあり、趣きもある。それにふさはしい題目もいくらもあらう。雨の日の雨ものがたり、源氏ではないが、いゝ一卷の保育日誌をつくつて見るのもよからう。

——「幼稚園雜草」より——

小さい畑

東京女子高等師範學校園藝室　大岩金

しばらく振で何か季節の園藝をこの依頼を受けたのでございますがいざ書くこなりますこ何を申してよいか迷ふのでございます。

日頃幼稚園の戸外遊園、運動場、又は保育室の窓下なごごんなにして明るく氣持ちのよい且つ時局に相應しい栽植をしたものかこ心に掛けながらもさしたる名案のない事をおはづかしく思ふのであります。

しかし幸にして當幼稚園は諸先生のあらゆる方面の御熱心な御研究に依り私の負はなければならない部分までも何かこ御配慮戴きますので常に荒れた庭こはなつて居ないのであります。

既に今春季休業中には小さいながらに組別の煉瓦框の花園も出來ました。蔬菜を主こした丸い菜園にも夫々の味を見せて居ります。四阿舍の蔓バラも今は一面に茂り美事に花をつけて居ります。

今こゝに是等のものに就きまして只今植付けしてあるもの及び手入れ等のあらましを記す事に致しませう。

一、煉瓦框の花園

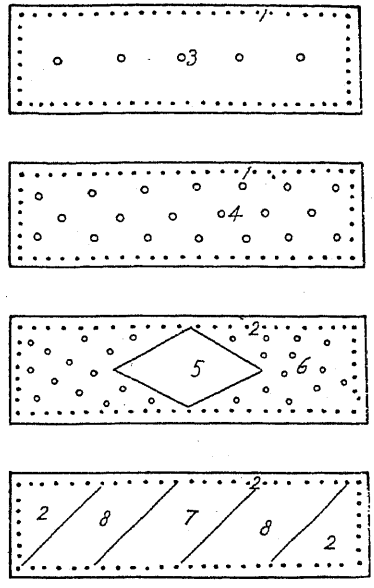
大きさは幅約九十糎、長さ三米で煉瓦を縦積みに並べてあります。約半分は地中に埋めてありますからこれならば幼兒が少し位緣に上りましてもすぐ倒れるやうな事はなからうこ思ひます。四月始めに出來上りましたのが今の所何の故障もなくて居ります。

是が六個並び中に六十糎位の通路があり中央の一路はやゝ廣く一米位になつて居ります。この六個こ申しますのは六組からなつて居ります幼稚園であります爲各組一つづゝを自分のものこしてゐるのであります。

之に次のやうな草花を植付けて見ました。しかし之は新に材料を備へたわけではありませんでもこからあつたものや本校の圃場で栽培しましたものを寄せ集めましたので是が決して最上のものこは認めてゐないのでありますがこもかく實際のまゝをのせる事に致します。

草花名

1　モツスフロックス



2　アルメリヤ
3　小菊
4　フランスギク
5　スキートピー
6　有禪菊
7　マーガレット(黄色)
8　美女撫子

小菊を植込んだものが苗の都合で三個出來ましたが同樣の模樣でありますから省略しておきます。

これ等六個の花壇を總括して眺めます時に框は全部練瓦で積んで極めて整然こした感じが現れて居ります。

それに對して縁付のモツスフロツクスこアルメリヤこ半分〳〵になつてゐるここ、植込む草花の種類のあまり多種類であるここ、又その植込みの模樣の個々別々になつてゐる事なご統一のこれない感じが致しますが夫々の框を受持たれる方が違ひますので各自の好みによりやむをえない事こ思ひます。

さて是等に就きまして今しなければならない仕事こ致しましては、

一、アルメリヤ

花が終つたものから順次花梗を切り取ります。是は株分に依りまして繁殖させるので種子を取る必要がありません。枯花を長くそのままにおく事は外觀上からも植物の爲にもよくありません。花はなくても細い葉の綠濃く又株も段々大きく茂つて來ますので却つて夏季の緣付にはよいものであります。

二、モツスフロツクス

是は花梗をいち〳〵切るここは少し厄介でありますがアルメリヤ程に目立ちませず極めて丈夫なものでありますからそのまゝにしても差支へありません。あまり周圍にはみ出るやうになりましたならば適宜その部分を切り取り緣幅を整へる程度でよいこ思ひます。

三、スキートピー

幼稚園のことでありますから花の後の結實の狀況を見せるのも意味あることでありますから今しばらくそのまゝにして實のかさ〳〵に完熟するのを待つてもよいのであります。もしこの必要がなければ取捨てて之に代るべきものを植付けます。秋の用意としてサルビヤが適當かと思ひます。苗床又は小鉢に準備されて居りますものを株間三十糎位をおいて植付け致します。

四、有禪菊、菊

是等菊科のものには菊虎（キクスヰ）といふ螢に似た害蟲がつくことがありまして折角丹精してゐる芽先を食ひ切る事がありますから早く見付けて取ること又砒酸鉛の溶液を撒布することが必要であります。

砒酸鉛　六十グラム
カゼイン石灰　十五グラム
水　二十リットル

砒酸鉛、カゼイン石灰共にメリケン粉によく似た白い粉末でありまして毒劑でありますから決して幼兒の遊ぶ近くにおきざりにすることなくよく仕末する事を忘れてはなりません。前二者を布袋に入れ適量の清水の中に振り出せば直ぐ溶けまして白色の溶液が出來上ります。之を噴霧器に入れて食害されさうな部分にかけておけばよいのであります。

次に菊を植えた框には一週一回位薄い液肥を施すことも必要であります。

五、マーガレット

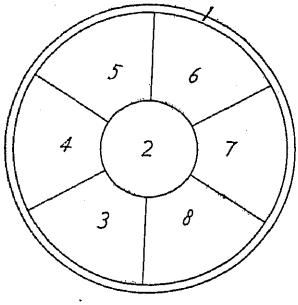
花が終りました後それ丈を切り取りまして綠濃い葉丈にするのも夏の氣分を現はしてよろしく又取り除いてサルビヤを植付けておくのも又よいのであります。

以上で大體の手入を申しましたが尙雨期の仕事としましては雜草をよく取ること、又いづれの花卉にもつきやすい蚜蟲（アブラムシ）の驅除を怠らない事であります。この蚜蟲驅除劑としては普通デリス石鹼が用ひられて居ります。

デリス石鹼　六十グラム
水　十八リットル

清水中にデリス石鹼の粉末を入れよく混ぜますこと二十分にして噴霧器で之は蟲體に充分かけてやります。

二、丸い分



蔬菜名

1　緣植（玉イブキ）

2　ベニバナインゲン

3　キャベツ
4　ツルナ
5　トマト
6　チョロギ
7　ホウレンサウ
8　草苺の豫定

今年は時局柄蔬菜をこの御注文でありましたので大體蔬菜を主として植付けました。

周圍の玉イブキは前により植ゑてありましたまゝを利用致しましたので蔬菜になつて居りませんが新に作るとすればこの部分にはパセリなど適當かと思ひます。

このうちキャベツは比較的手數を要します蔬菜でありますので幼稚園の畑には少しどうかとの氣がかりもありましたが丁度本校に苗の用意が澤山ありましたので植付けました。そして各組一區劃づゝ受持つことにしてその管理の仕方を傳へ毎日見廻ることにして居ります。只今外葉は相當の勢で擴がり中にも追々と結球して居ります。

一、キャベツ

手入れとしては青蟲、夜盜蟲の幼蟲がつき葉を食害しますので毎日の捕殺は申す迄もなく雨の晴間には砒酸鉛溶液の撒布を三回位行ひます。

そして月末にもなりまして相當の結球を致しましたならば收穫をしなければなりません。雨期のことでありますから餘り長くおきますと上の方に割目を生じて來ます。

二、トマト

狹い區劃のことでありますから必ず一本立としまして主枝丈を伸ばし脇芽は全部取除くやうに致します。

莖は伸びるに從ひ常に支柱にしばりつけて行くことであります。

又この雨期にはよく縮葉病などの病氣のつく事がしばしばありますので根本に木灰を敷くとかボルドウ液の撒布を行ふことが必要であります。

ボルドウ液を作りますには粉末ボルドウと申しまして藍綠色の粉末になつたものを求めまして用ひるのが便利であります。普通三斗式から四斗式の濃度のものを使用して居ります。

四斗式ボルドウ液

粉末ボルドウ　六百七十五グラム
清　水　十八リットル

製法は砒酸鉛液の時と同樣でありまして使用法も同じく噴霧器を用ひます。

尙病氣のきざしの見えました場合には早くその株を拔き取り燒却することであります。又この株を扱つた手、鋏等は必ず洗つて次の健全な株にうつさないやう注意致しま

す。

三、ツルナ

別に手入と申す程のことはありませんでもうこの頃から芽先を收穫してよいのであります。空地がありますならば今から播種しましても夏末頃までには收穫が出來るやうになります。

四、ベニバナインゲン

是は蔓性種でありますので支柱を立てます。長さ一米半程の篠竹をしつかりと立込み中央に一本ガラ竹のやうな太いものを立て篠竹の先をまとめて屋根形にこの中央にしばりつけますと倒れないやうな丈夫なものになつてよいかと思ひます。

五、ホウレンサウ

是は昨年播種したものでありまして採種するために殘してあります。雌雄異株でありますから雄株は抜きとり雌株丈にして種子の完熟を待ち取入れます。

尙この外に空地がありましたならば草苺の苗を植付けます。この雨期に致しますのが最も活著がしやすいのであります。それには今親株から無數に出て居ります匍匐枝の内本に近い一、二節を取りまして株間十五糎乃至二十糎をおいて植付けておけばよいのであります。この匍匐枝の植付けは七月まで續けて行ふ事が出來るのでありますが苺苗養成に當りましては乾燥を最も忌むものでありますからこの梅雨の時期が最良であるのであります。七月にもなりますとこの乾燥と高溫とを防ぐために日中は日除をする必要があり又あまり乾きます時には灌水しなければなりません。

會告

八月號休刊

本誌八月號は休刊し、九月に於て、八、九兩月號を合冊發刊いたします。

昭和十四年七月

日本幼稚園協會

——ヨハンナ・スピリ原作——

ハイディ

（第十五回）

津田芳雄譯

ピューッとおもてで口笛が鳴つた。ハイディは稻妻のやうに駈け出した。ペーテルをまん中にして、山羊たちが岩を飛び降りて來た。ペーテルはハイディを見ると、びつくりしてものも云へずに立ち止まつてしまつた。

「ペーテル、こんにちは」

ハイディは山羊の群に飛び込んで行つた。

「小つちやな白鳥ちやん！　ちつちやな熊ちやん！　わたしを覺えてゐて？」

たしかに山羊たちは覺えてゐた。うれしさうに頭をすりよせて來ては、大きな聲でのどを鳴らすのだつた。そしてハイディが順々に名前を呼ぶと、てんでにあわてふためいて跳んで來て、ぐるりとハイディを取り圍んでしまつた。せつかちの「ひわ」は、早くハイディのそばへ行かうと思つて、外の二匹を跳び越して來た。はにかみやの小さな「ゆき」までが、決然として「トルコ人」を突き退けて進み出ると、「トルコ人」は「ゆき」の大膽さに呆れながらも、「わたしを覺えてゐるでせう」といふやうに、髭をおつ立てて見せるのだつた。

ハイディはこのなつかしいお友達みんなに、又逢へたうれしさで、もう有頂天だつた。小つちやなかあいい「ゆき」を抱いてやつたり、騷々しい「ひわ」の毛並みを撫でてやつたりしてゐるうちに、なつかしさうにすり寄つて來る山羊たちに押されて、たうとうペーテルの立つてゐる所まで來た。ペーテルはさつきからまだ呆れたままで、ぽかんと突つ立つてゐたのだつた。

「ペーテル、降りていらつしやいよ。まだ『こんにちは』も云つてくれないぢやないの」

ハイディは叫んだ。

「そんなら、ほんたうにハイディちやんは歸つて來たんだね」

ペーテルはやつとものが云へるやうになり、大急ぎで駈け降りて來て、ハイディの差し出した手を握つた。するとせんにいつも山の歸りに云つてゐた通りのことをもう訊ねてゐた。

「あした一緒に行く？」

「ううん、あしたはだめ。おばあさんとこへ行かなきやならないから。あさつては、大てい行くわ」

「かへつて來てうれしいなあ」

ペーテルの顔は、いちめんに輝いた。

それから、ぽつぽつ山羊たちを連れて歸る支度をはじめたが、山羊たちははしやぎまはつてなかなか云ふことをきかず、せつかくなだめたり叱つたりして、やつと一と所に集めたかと思ふと、ハイディがおぢいさんの二匹の山羊の肩に手をかけて小舍の方へ歩き出せば、又してもぞろ〳〵とその方へみんながついて行つてしまふので、ペーテルはほと〳〵手こずつてしまつた。ハイディが自分も二匹の山羊と一緒に小舍に這入つて戸を閉めてしまはなかつたなら、その晩はペーテルはいつになつても家に歸ることが出來なかつたかもしれない。

このさわぎがすんで、ハイディが家の中に這入つて見ると、ちやんと寢臺が出來てゐた。とりたての、いいにほひのする枯草が、ふか〳〵と積み重ねてあり、新しいシーツですみ〴〵までくるんであつた。その夜ハイディはのび〳〵と心愉しくぐつすりとその中で寢た。おぢいさんは夜中に十ぺんも起き出して行つては、梯子をのぼつて、ハイディがすや〳〵と眠つてゐるか、寢苦しさうな樣子はしてゐないか、丸窓から射し込む月の光りが眩しすぎないやうにと積み重ねておいた藁が、うまくちやんとなつてゐるか、なぞと細かく氣を使つてやるのだつた。けれどもハイディは身動きもせず、すや〳〵と心地よく眠りつづけた。もう家ぢうをさまよひ歩く必要もなかつた。心の底からの燃えるやうなねがひが叶ひ、高い峯や岩が夕陽に眞赤に輝いてゐるところも見たのだし、樅の木が風に枝をさやめかすのも聞いたのだし、そしてたうとう、お山のおうちに又歸つて來てゐるのだもの。

十四、日曜日の鐘の音

ハイディは風にゆれる樅の木の下に立つて、おぢいさんを待つてゐた。これから二人で、途中ちよつとおばあさんのところへ立ち寄り、それからデルフリの水車小屋へハイディの旅行かばんをとりに行くのである。ハイディはあの白い卷パンがごんなにおいしかつたかが早く聞きたくて、おばあさんに逢ひたくてたまらなかつた。でも、その待つてゐる間でも、ハイディは決して退屈しなかつた。樅の木の枝をゆするなつかしい音は、いくら聞いても聞き飽きなかつたし、あをい牧場を吹いて來る風の草のにほひは、吸つても吸つても吸ひ切れないし、お日樣に輝く金いろの花は、いくら見ても見飽きない氣がするのだつた。やがておぢいさんが出て來て、一さわたりあたりを見まはして、それから上機嫌でハイディを呼んだ。

「さあ、行かうぜ」

その日は土曜日で、おぢいさんが家の內外をすつかり大掃除する日だつた。おひるからハイディを連れて出かけられるやうにと、その日は朝のうちずつと働いたので、そこいらぢうは、おぢいさんの氣のすむまで、ぴかぴか光つてゐた。

二人はおばあさんの小屋の前で別れた。ハイディが駈け込んで行くと、おばあさんはもう足音で知つてゐて、入口まで迎ひに來て、

「おお、ハイディちやんだね。よく來てくれたねえ」

と、ハイディの手をとつて又何處か遠くへ連れて行かれはしまいかと恐れるもののやうに、しつかりと握りしめた。それから、白い卷パンがごんなにおいしかつたか、あれを食べてごんなに元氣が出て來たかを、うれしさうに述べ立てるのだつた。するとそばからペーテルのお母さんが引きとつて、こんな調子で一週間も食べられたら、ぐんと元氣を取り戻すのだけれど、おばあさんは白パンがなくなつてしまふのを心配して、一つしか食べないのだと云つた。ハイディはぢつと聞いてゐて、しばらく考へてゐたが、急によいことを思ひ付いた。

「ああ、かうすればいいわ、あばあさん」

ハイディは一生懸命に云つた。

「わたし、クララにお手紙を書くわ。そしたら、あれとおんなじ位、又送つて下さつてよ。だつて、せんにわたし、とつてもごつさりたんすの中に貯めておいたのですもの。ロッテンマイアさんがみ

んな棄てゝしまつた時、クララはあれこおんなじだけ、きつこ返してあげるつてお約束したのよ。だから、きつこ大丈夫よ」

「それは結構だけど、でも一ぺきにごつさり送つてもらつたんぢや、硬くなつてしまふよ。デルフリのパン屋にも白パンがあるのだけれど、ごうも高くつてねえ」

お母さんが云つた。

すると、もつこ〳〵うれしい考へが、ハイディの頭に浮んだ。ハイディは部屋ぢうを跳んであるきながら叫んだ。

「ああ、わたし、ごつさりお金持つてるのよ、おばあさん。今やつこその使ひ道がわかつたわ。おばあさんは毎日、柔い新しい白パンを、一つづゝ買ふのよ。日曜日には特別二つね。ペーテルがデルフリまでお使ひに行けばいいわ」

「飛んでもない、そんなにまでしてもらつてはすまないよ。そのお金は、そんなことをする爲めにいただいたんぢやないんだよ。おぢいさんにあづけておけば、ちやんこ使ひ道を敎へて下さるんだからね」

だが、ハイディはそんなことぐらゐで、その優しい思ひ付きを止める氣はなく、うれしさうに何度も何度も叫びながら、なほも部屋ぢうを跳びまはるのだつた。

「これからはおばあさんが、毎日〳〵白パンが食べられる。そしたら又すつかり丈夫になつて——ああ、おばあさん」

急に又、うれしくつてたまらないことを思ひ付いた樣子で、

「おばあさんが丈夫になつたら、又眼が見えるやうになるわね。そこいらぢうが暗いのは、弱つてるからなのねえ」

おばあさんは默つてゐた。こんなにもやさしい心の子供の、こんなにも喜んでゐるのを傷つけたくなかつたので、ハイディは跳んであるいてゐるうち、ふこおばあさんの古い讃美歌の本を見付けた。すると、又うれしい考へが浮んだ。

「おばあさん、わたし、もう字を讀んだり書いたりすることも出來るのよ。讃美歌を讀んであげませうか」

「ああ讀んでおくれ」

おばあさんは喜んで、でもびつくりしながら云つた。

「だけごお前さん、ほんたうに讀めるのかね」
ハイディはもう椅子にのぼつて本を取りおろしてゐた。夥しい埃だつた。長い間手をふれるものもなく、棚の上におきつぱなしにされてゐたのである。ハイディは埃を拂つて、おばあさんのそばの腰掛けに腰をおろし、ごれを讀まうかごたづねた。
「ごれでも結構、お前さんの好きなのを」
おばあさんは糸車をわきへ押しやつて、一生懸命にハイディの讀み出すのを待つてゐた。ハイディはページを繰りながら、あちこち一二行づつ口ずさんでゐたが、
「ああ、これがいいわね、おばあさん。お日樣のうたよ」
そしてハイディは讀み出した。讀んで行くにつれ、ますます力をこめながら——

朝は來ぬ
ほのぼのごかがやかに
金色の陽をあびて
地はしづかなり
曉は夜の雲を拂ひぬ

神のみわざ
四方に滿つ
小さきものも偉いなるも
ごごごくみわざを讃ふ
神の愛　滿ち足りぬ隈ごなき

ものは去れど
神のみは永久
つよき力もて
御旨なし給ふ
溢らぬは御旨、つよきは御旨

みすくひは
ごはにかはらじ
悲しみに　戰きに
胸くづるごも
終ひの勝利は御旨なり

よろこびは
樂園にて
あらし果てていこふ時——

やすらかに待たむ
神の御世こそ此上なけれ

おばあさんは手を組み合はせ、之もいはれぬよろこびを顔ぢうにみなぎらせて聽き入つた。涙がぽろぽろと頰を傳つてゐたけれど、おばあさんのこんなうれしさうな顔を、ハイディは今までに見たことがなかつた。ハイディが讀み終ると、

「もう一度、お願ひだから、もう一度だけ、聞かせておくれ」

と一生懸命にたのむのだつた。ハイディもおばあさんと同じ位うれしくなつて、繰返して讀んだ。

よろこびは
樂園にて
あらし果てていこふ時——
やすらかに待たむ
神の御世こそ此上なけれ

「ああ、ハイディちやん、お蔭で心がすうつと明るくなつたよ。ありがたうよ、ありがたうよ」

おばあさんは何度も何度もうれしさうに云つた。ハイディはすつかりうれしくなつて、今までとはまるで違ふその晴れ晴れと輝くおばあさんの顔を、いつまでもいつまでも見つめてゐた。もはや心配もなく、すでに心の眼では天國の樂園を、晴れ晴れとながめてゐるやうな、歡びと平和にあふれた顔だつた。

誰かが窓を叩いたので、ハイディが行つて見ると、おぢいさんが迎ひに來て手招いてゐるのだつた。ハイディは、これからも、もしペーテルと山へ行くにしても、半日だけにして歸つて來て、きつとおばあさんのこころへ遊びに來ると約束した。自分が來ればおばあさんを樂しませ、元氣づけるのだといふことが、ハイディには何よりもうれしく、お日樣のきらめく山で、花や山羊たちと遊ぶよりも、もつと樂しい氣がした。ハイディが歸らうとすると、ブリギッタが昨日ハイディがおいて行つた著物と帽子を持つて來た。ハイディは思ひ直して著物だけは腕にかけて持つて歸つたが、帽子はどうしても取らなかつた。道々ハイディは夢中になつて、おばあさんの家での話をした。お金さへ持つて行けば、デルフリにも白パンを賣つてゐることと、おばあさんがどんなにめきめきと

元氣に晴れやかになつたか、といふことなど。それから又パンの話にかへり、

「おばあさんが、どうしてもお金を取つてくれなかつたら、おぢいさん、わたしにあのお金をみんな頂戴ね。そしたらわたし、毎日一つづつ、日曜日には二つ、買ふだけのお金を、ペーテルにやるの」

「ぢやが、寢臺はどうするかね。ちやんとした寢臺は買つておいた方がよいぞ。それでもパンが十分買へるだけは餘るがね」

だがハイディは、あの枯草の寢臺の方が、フランクフルトのきれいな枕のついた立派な寢臺よりも、ずつとよく眠れるからと、一生懸命にせがみ立て、たうとうおぢいさんを承知させてしまつた。

「まあ金はお前のものぢやから、好きなやうにするがいいさ。あれだけあれば、おばさんのパンなら、何年間も買へるぞ」

ハイディはおばあさんがこの先きもう二度と黑パンを食べなくてもすむと思ふと、聲をあげて悅んだ。

「ねえおぢいさん、なにもかも、せんよりかずつとよくなつたわね！」

そして、おぢいさんの手を引つ張りながら、小鳥のやうにはしやいで、歌をうたつたり、跳びはねたりした。だが、ふと急に靜かになつて、云ひ出した。

「でも、神樣があの時わたしがお祈りした通りに、すぐ歸らせて下さつてゐたら、こんなにいいことはなかつたのだわ。おばあさんにはパンをちよつぴりしか持つて來て上げられなかつたのだし、わたしはまだ字が讀めなかつたから、おばあさんをあんなに喜ばせて上げることも出來なかつたのだわ。神樣は、わたしよりもずつとよく分つていらしつて、なにもかもよくして下さつたのね。みんな、クララのおばあさまの仰しやつた通りになつたわ。ほんたうに、神樣がわたしがはじめ、泣いてお祈りした通りにして下さらなくつてよかつたこと！　これからも、おばあさまのおつしやつた通り、ずつと神樣にお祈りして、お禮を申し上げるわ。もしか神樣がお願ひを叶へて下さらなかつたら、これはフランクフルトの時みたいなんだ、神樣はあとできつと、もつともつといいことをして下さるんだつて、自分に云つてきかせるわ。ねえおぢいさん、毎日お祈りしませうね。そして

決して神様を忘れないやうにしませうね。でないと、神様もわたしたちのことを忘れておしまひになるわ」

「神様を忘れると、どうなるのぢやね」

おぢいさんは低い聲で云つた。

「そしたら、なにもかもめちやめちやになるのよ。神様はその人を勝手にさせてごらんになるの。さうすると、その人は貧乏になつておちぶれて泣き出すのだけれど、よその人は誰もかまつてくれないで、お前は神様から逃げ出したんぢやないか、逃げなければ神様は助けて下さるのに、逃げるもんだから、さうやつて勝手にさせてお置きになるんだよ、つて云ふのよ」

「ほんたうにさうぢや。ハイディ、お前はどこでそんなことを習つたのぢや」

「クララのおばあさまからよ。おばあさまは、なにもかもようくわかるやうに、お話しして下さつたわ」

おぢいさんはしばらく默り込んで歩いてゐたが、やがて自分の考へをたどりたどり云つた。

「ぢやが、一たんさうなつてしまへば、もうおしまひぢや。引きかへすことは出來ない。神様から見棄てられたものは、永久に見棄てられたのぢや」

「ちがふわよ、おぢいさん、引きかへせてよ。おばあさまだつてさう仰しやつたし、わたしのご本の美しいお話にも書いてあつてよ。——あら、おぢいさんにまだあのお話、してあげなかつたのね。早くおうちへ歸つて、わたしすぐ讀んであげるわ。とつても美しいお話よ！」

ハイディは少しも早く歸らうと、けはしい坂道を大急ぎで駈けのぼり、頂上に著くとぷいとおぢいさんの手を放して小屋に駈け込んだ。おぢいさんは、ハイディの鞄があんまり重いので、中のものを少し取り分けて入れて來た籠を、肩からおろした。それから腰かけて、もの思ひに耽けりはじめた。

ハイディは本をかかえて飛んで來た。

「ああ、それでいいわ、おぢいさん」

ハイディはおぢいさんがちやんと腰をかけてゐるのを見ると、かう叫びながら、自分もそばにかけ、早速本を開くと、しよつちうそこばかり讀むので、ひとりでにそのお話のところが開いた。主人公によせた深い同情を、聲にも調子にもあらはしながら、ハイディは讀み出した——。

「羊飼ひの息子がありました。毎日お父さんの羊を牧場に連れ出して番をしながら、樂しく暮らしてゐました。この繪はその息子が、身なりも小さつぱりと、牧場に立つて、羊飼ひの持つ杖にもたれながら、美しい夕陽をながめてゐるところです。ところがこの息子は、急に自分の財産の分け前が欲しくなり、お父さんにせがんで分けてもらひ、都會に出かけ、間もなくすつかり使ひはたしてしまひます。おちぶれて、ある貧乏な百姓の下男になりますが、その百姓は、羊も畑もなく、豚だけしか持つてゐません。息子は豚の番人になりました。ぼろぼろの著物をまとひ、食べ物と云つても豚の食べる豆莢しかなく、急に家がなつかしく、やさしいお父さんが戀ひしくなつて、自分の恩しらずが悔まれます。息子は泣きながら考へました。お父さんのところへ歸つて、『お父さん、わたしはもう息子と呼んでいただくねうちはありませんが、どうかせめて下男にして下さい』と云はう、と。そして息子が歸つて來ますと、お父さんは遠くの方からそれを見付けて——」

ここまで來ると、ハイディは急に讀み止めて云つた。

「おぢいさん、それからどうなると思つて？——お父さんはまだ怒つてゐて、『それ見たことか！』と云つたと思つて？　まあ次ぎを聞いていらつしやい」

		定價	送料
倉橋惣三著 育ての心	東京、神田區駿河臺三丁目六 刀江書院	一、五〇	〇、一四
倉橋惣三著 幼稚園保育法眞諦	東京、神田區神保町一丁目六七 東洋圖書株式會社	二、八〇	〇、一六
倉橋惣三 新庄よしこ共著 日本幼稚園史	同上	三、八〇	〇、二〇
倉橋惣三著 幼稚園雜草	東京、日本橋區、大傳馬町 內田老鶴圃	二、五〇	〇、一四
日本幼稚園協會編 幼兒に聽かせるお話	同上	三、八〇	〇、一四
日本幼稚園協會編 幼兒の樂しむお話	同上	二、八〇	〇、一四
日本幼稚園協會編 幼兒發達檢査	東京、神田、神保町 フレーベル館	一、〇〇	〇、八
淡路圓次郎著 幼兒性行評定尺度	同上	一、〇〇	〇、二
倉橋惣三監修 保育叢書 菊池ふじの 德久孝子著 幼兒のための 人形芝居脚本	同上	一、〇〇	〇、二
及川ふみ著 幼稚園の手技製作	同上	一、〇〇	〇、二
膳眞規子著 自然物おもちや	同上	一、〇〇	〇、二
和田實著 實驗保育學	同上	一、〇〇	〇、二

日本幼稚園協會編輯　幼兒の教育

會長　東京女子高等師範學校長　下村壽一

主幹　東京女子高等師範學校教授　附屬幼稚園主事　倉橋惣三

日本幼稚園協會規則

第一條　本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條　會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條　會員ハ會費トシテ一ケ月金參拾五錢ヲ醵出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條　令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條　幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラルヽモノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條　本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條　本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査

一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名　會務ヲ總理ス

主幹　一名　會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事　若干名　會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員　若干名　重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條　會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條　主幹　幹事　評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推擧スルモノトス

第十二條　本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルヽコトアルヘシ

第十三條　本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ケ月分	金參拾五錢
一冊送料	壹錢
半ケ年分	金貳圓拾錢
六冊送料	共
一ケ年	金四圓貳拾錢
拾貳冊送料	共

廣告

特等面一頁	金貳拾圓
二等面一頁	金拾圓
一等面一頁	金拾五圓
一頁以下	御斷り

廣告社に御申込下さい　神田區駿河臺一ノ三　品田

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

昭和十四年五月二十八日印刷納本
昭和十四年六月一日發行

幼兒の教育　第三十九卷　第六號

編輯兼發行者　東京女子高等師範學校附屬幼稚園內　倉橋惣三

印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　柴山則常

印刷所　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　合資會社杏林舍

發行所　東京市小石川區大塚町三十五　東京女子高等師範學校附屬幼稚園內　日本幼稚園協會　振替口座東京一七二六六番

不許複製

禁轉載

注文定規

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割增)

一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。

一、送金の節には第何卷第何月號より第何月號迄と明記せられたし。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。

一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
（毎月一回一日發行）
昭和十四年五月二十八日印刷納本
昭和十四年六月一日發行

今月からの手技用材料

◇七夕まつり用品――五色の短冊五枚、提灯用紙二枚、銀の星五枚をもつて一組。
五〇組　金一圓五十錢

◇盆提灯用繊紙――堅緻な手漉の純粹和紙で、見るからに清々しい水色の絞模様と鮮紅の中紙。
五〇組　金一圓

◇團扇用紙――徑四寸の地紙と柄。お子達は柄を取付け圖案を致します。
一〇組　金三十錢

◇夏休み前のおみやげ品――

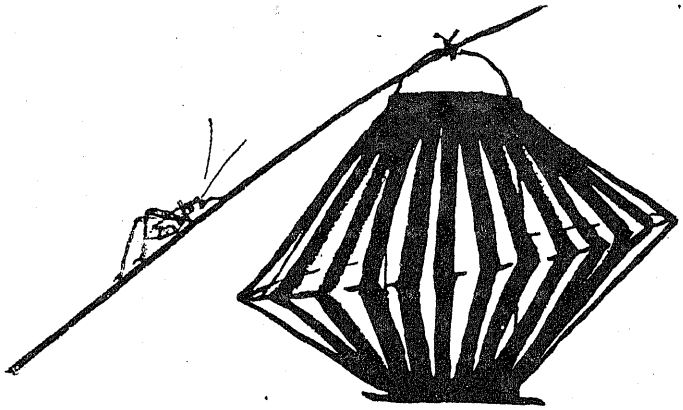
木舟	一個	金十五錢
紙舟	一〇個	金二十五錢
金魚と風鈴	一〇人分	金二十五錢

◇模造紙の摺紙値段改正

十五糎大形	一〇〇〇枚	金一圓
十二糎中形	一〇〇〇枚	金七十錢
九糎小形	一〇〇〇枚	金四十錢

以上は單色と取揃へて御座います。

×四月一日より一品單價參圓以上に壹割の物品税が賦課されます、お含みをお願ひ致します。



株式會社　フレーベル館

本社　東京・神田・神保町・二町(33)電話　三六六二番
支店　大阪・東區・備後町・五町(24)電話　一三九八番

定價參拾五錢